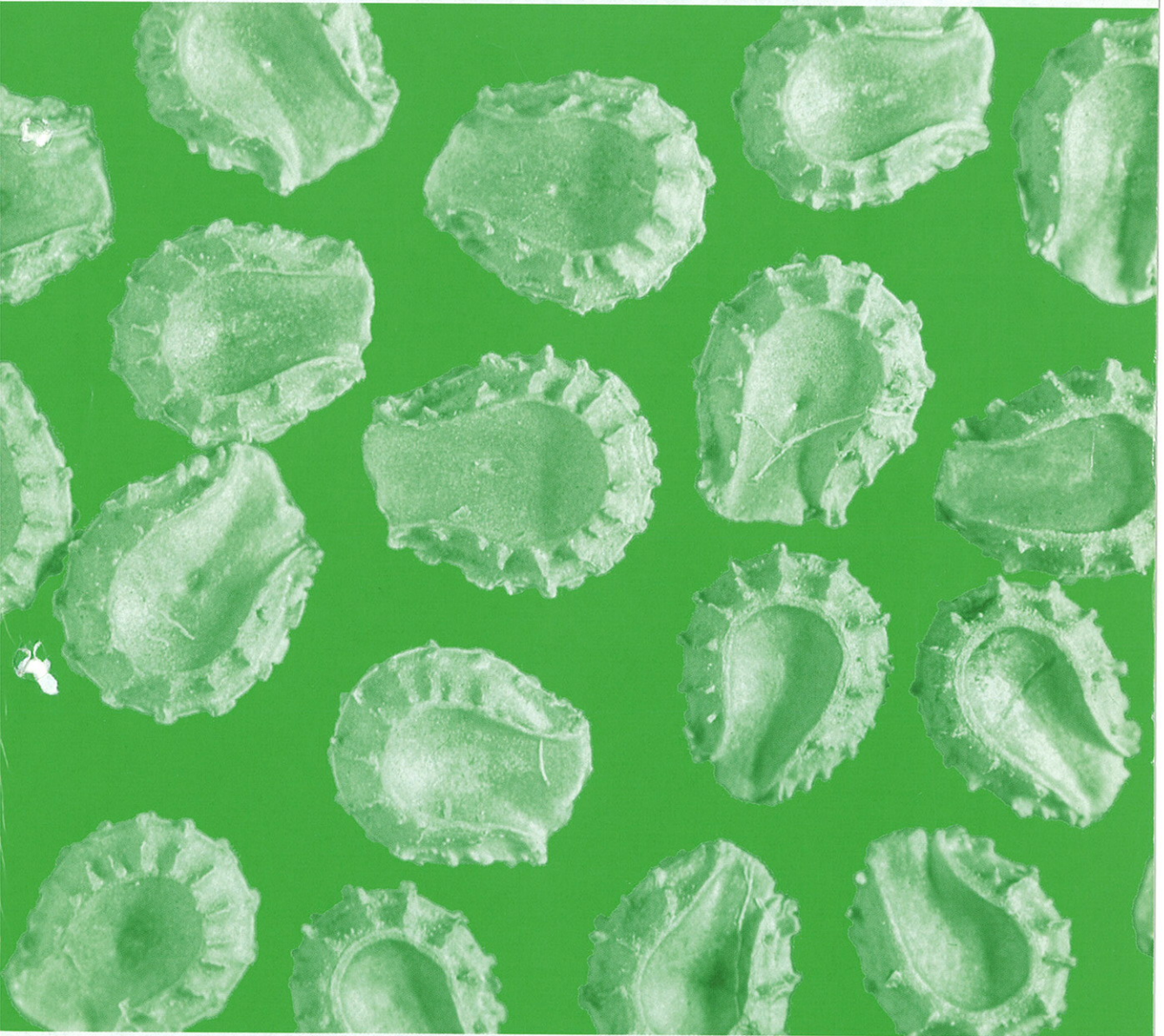


植調

第44巻第12号



ハスノハカズラ (*Stephania japonica* Miers) 長さ6mm

財団法人 日本植物調節剤研究協会編
<http://www.japr.or.jp/>

より豊かな農業生産のために。 三井化学アグロの除草剤



クサトリードX 1キロ粒剤75/51
フロアブルH/L
ジャンボH/L

シロノック 1キロ粒剤75
H/Lフロアブル
H/Lジャンボ

ミシロノック 1キロ粒剤51

ラクダー 1キロ粒剤75/51
フロアブル・Lフロアブル

クサトッタ 粒剤
1キロ粒剤

ミスラッシャ 粒剤
1キロ粒剤

イネキング 1キロ粒剤
フロアブル
ジャンボ

イネエース 1キロ粒剤

シング 乳剤

ミスウィーブ フロアブル

ザーベックスDX 1キロ粒剤

ザーベックスSM 粒剤
1キロ粒剤

クサファイター 1キロ粒剤

フォローアップ 1キロ粒剤

三共の草枯らし

三井化学アグロネット会員募集中!

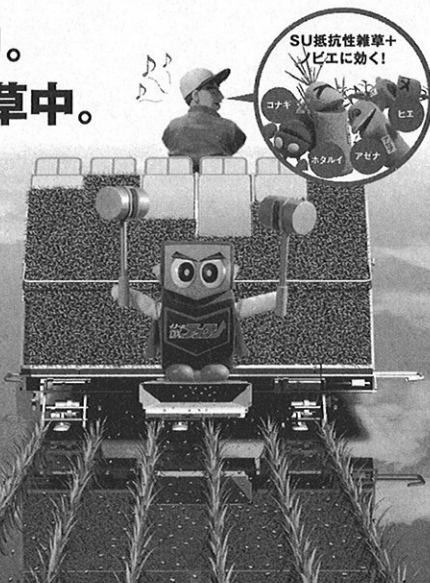
インターネットを使って農業使用履歴を記憶できる栽培履歴管理システム「かすが日誌」や、登録内容を携帯電話でチェックできるなど、特典いろいろ! 登録は無料です。詳しくはホームページで!



三井化学アグロ株式会社

東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
ホームページ <http://www.mitsui-agro.com/>

**田植え中。
でも、除草中。**



イノーバDXアップ
1キロ粒剤

イノーバDXアップなら、
田植えと同時に除草ができる。

水稲用一発処理除草剤

楽に、一発。

田植え後
散布も
できる!

SU抵抗性雑草+ノビエに効く



SU抵抗性
コナギ



SU抵抗性
ホタルイ



SU抵抗性
アセナ



ノビエ



Bayer CropScience

バイエルクロップサイエンス株式会社
www.bayercropscience.co.jp



： 卷 頭 言 ：

使用する側に立った製品の開発

(財)日本植物調節剤研究協会 関東支部長 大嶋保夫

最近、携帯電話を買い換えました。今までの機種は画面が小さく不便なので、テレビで大々的に宣伝している最新のスマートフォンを購入しました。スマートフォンは携帯電話と携帯情報端末を融合させた携帯端末なので、電話機能の他に、パソコン的な利用としてウェブの閲覧・メールの送受信、PDFやWord・Excelファイルなどの閲覧、スケジュール管理、マルチメディアプレーヤー、カメラ、ゲーム、電子辞書、電卓、時計、GPS、テレビ・ラジオ、おサイフケータイなど、様々な機能が付いています。

若い人たちは、この手の機械に順応が早く、素早くボタンや画面を操作し、器用に使いこなしています。私はというと、機能を使いこなす以前に、節くれた太い指では隣のボタンも一緒に触れてしまい、旨く操作もできないありさまです。取扱説明は読むだけでも難儀。文字が小さいので、メガネを取ったり外したり、時間がかかります。小型化・多機能化は便利で良いのですが、取扱説明書は読みやすく、不慣れな者、アナログ人間にも分かり易くして欲しいと思います。

さて、新製品がいろいろ開発されているのですが、私たちの扱っている除草剤はどうでしょうか。専門的に扱っている者にとっては、何の疑問も感じないことでも、稀にしか使用しない人、高齢者は、戸惑っていないでしょうか。水稻の育苗箱施薬のつもりで間違えて除草剤の施用

した事例、散布量や希釈倍率など間違えて葉害が生じたという話をしばしば耳にします。水稻除草剤では処理時の止め水の徹底、畦畔からの漏水、ほ場の均平など、私たちにとって当たり前のことでも、新規参入者や手伝いの中には知らない人も多いのではないのでしょうか。

雑草制御は農業の基本的な課題であり、経営面積の拡大には、除草剤などによる効率的除草法は欠かせません。農業従事者の高齢化などに伴い、労働負荷軽減が望まれます。また、新たに問題として外来難防除雑草の侵入、マイナー作物における薬剤の種類不足などの課題が指摘されています。一方、ポジティブリスト制が導入されるなど、安全性に対する消費者の関心が高まっています。

登録されている除草剤は正しく使うことにより剤の能力を発揮し、農産物の収穫量確保や生産者の労力軽減などの効果が上がります。また安全性が保証されます。私たちの社会的責任を果たすためにも、除草剤は適正に使用されなければなりません。そのためには使用者と直接接する現場の指導者、販売店などの役割は大きいと考えます。一方、使用勝手の良い剤の開発、取扱説明を読みやすくするなど、使用する側に立った製品、使用者に優しい製品の開発が必要です。そのためには現場の意見や要望に耳を傾ける必要があり、当協会が行っている普及適用性試験の果たす役割も大きいと改めて思いました。

目次

(第 44 卷 第 12 号)

巻頭言	平成22年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験判定結果	20
使用する側に立った製品の開発	＜(財)日本植物調節剤研究協会 関東支部長 大嶋保夫＞	1
＜(財)日本植物調節剤研究協会＞		
水稻用除草剤開発・普及状況の推移 その1	平成22年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験判定結果	27
＜(財)日本植物調節剤研究協会 専務理事 竹下孝史＞	＜(財)日本植物調節剤研究協会＞	
切り枝の植物生育調節剤を利用した開花促進技術	新刊紹介	43
ーサクラ‘啓翁桜’切り枝の早期促成12月出し栽培におけるシアナミド液剤とジベレリン水溶剤の利用技術ー	「話のたねのテーブル」より	
＜山形県農業総合研究センター 園芸試験場 佐藤武義・酒井友幸・高橋佳孝 ¹ ・佐藤裕則 ² ・小野恵二 ³ ＞	東京初上陸? イトツメクサ	44
	＜植村修二＞	
静岡県におけるヒロハフウリンホオズキの発生状況について		16
＜静岡県農林技術研究所作物科 科長 木田揚一＞		



問題雑草を一掃!!

省力タイプの高性能一発処理除草剤シリーズ

水稻用初・中期一発処理除草剤 日農 イッポン® 1キロ粒剤75 フロアブル ジャンボ この一本が 除草を変える! 田植え 同時処理 可能! 	水稻用初・中期一発処理除草剤 ダイナマンD 1キロ粒剤51 フロアブル 	投げ込み用 水稻用一発処理除草剤 マサカリ ジャンボ マサカリLジャンボ 投げ込み だけ!! 
--	---	--

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。

●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。

●使用後の空容器・空袋等は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

DN協議会

事務局 日本農薬株式会社

東京都中央区日本橋1丁目2番5号

水稻用除草剤開発・普及状況の推移 その1

(財)日本植物調節剤研究協会 専務理事 竹下孝史

はじめに

水稻用除草剤の開発・普及が始まって平成21年(2009)で60年を迎える。これまでそれぞれの時代に即したさまざまな薬剤や製剤の開発がなされてきており、それらの開発・普及の経緯をまとめ、本誌に掲載してはどうかという意見が「植調」誌編集委員会のなかで提案された。

本記事はその提案をうけてその概要を整理したものであるが、内容としては各項目についての推移を示した図を中心とし、極めて簡単な解説にとどめた。

ここで示した図については、各年度に関係各社より提示された「水稻用除草剤出荷量調査」の

数値を基に計算・作成したものである。

1. 処理時期別使用面積の推移

昭和44年(1969)に「茎葉兼土壌処理剤研究会」の発足により基幹薬剤にsymetrinやMCPB等との混合化が計られ、昭和50年代の水稻用除草剤の使用方法としては『土壌処理剤(初期剤)→茎葉兼土壌処理剤(中期剤)』の体系処理が主体で、昭和54年(1979)は水稻作付け面積の69%を占めた。さらに寒冷地を中心に『初期剤→初期剤→中期剤(→後期剤)』の体系処理もみられるにおよび、昭和50年(1975)から処理回数の低減化を目的とした「体系是正剤」の開

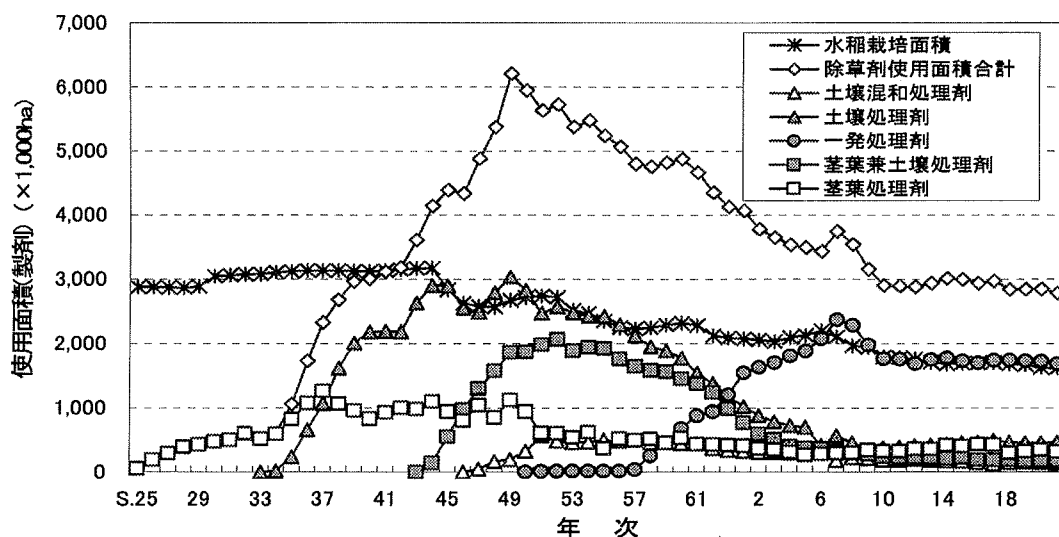


図-1 水稻用除草剤(製剤)使用面積の推移

発が着手された。

その後「体系是正剤」は普及にあたり「一発処理剤」の呼称に変わった。

昭和58年から普及が開始された一発処理剤の使用が拡大するにつれ、土壌処理剤、茎葉兼土壌処理剤を組み合わせた体系使用は急速に減少し、平成21年(2009)には土壌混和処理剤約137千ha、土壌処理剤約465千ha、合わせて初期剤約602千ha、茎葉兼土壌処理剤(中期剤)が約177千ha、茎葉処理剤(後期剤)が約319千haにまで減少している。一方、一発処理剤は約1,689千haと、除

草剤総使用面積2,786千haの60.6%、水稻栽培面積の104%を占めると計算される(図-1)。

2. 除草剤の使用体系

Sulfonylurea系薬剤の開発により、さらに安定した効果を有する一発処理剤が登場し、年々その効果が確認されるによび、一発処理剤1回だけで雑草防除が可能であることが認められ始め、平成5年(1993)には『一発処理剤1回処理』を中心とした方法が作付け面積の55%を占めるようになり、一方従来の体系処理は12%

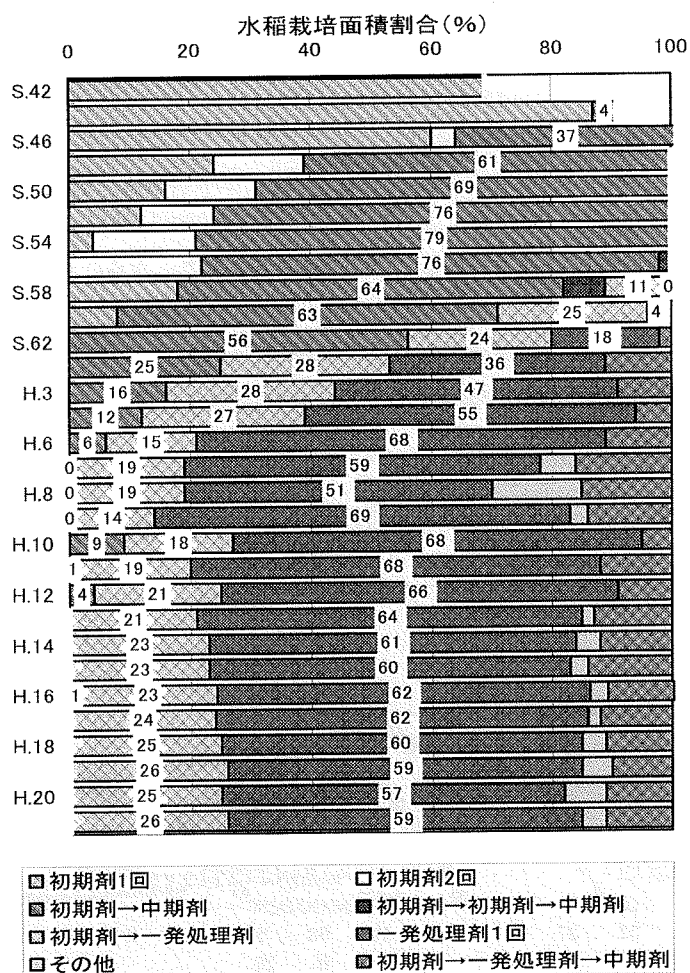


図-2 水稻用除草剤 処理体系(概要)の推移

にまで減少した。また『初期剤→一発処理剤』の組み合わせによる処理は27～28%の位置を占めた。

平成6年(1994)以降は、それまで初期剤として使用比率の高かったCNP等の普及が中止されたこともあり、勢い一発処理剤主体の処理体系が急速に進む結果となった。

この状況のなか平成9年(1997)頃から、Sulfonylurea系除草剤に対し抵抗性を有する雑草の問題が地域により顕在化したこともあり、その防除対策ならびに拡大防止の上から、平成14年(2002)以降は「初期剤→一発処理剤」の組み合わせ処理がやや増加する一方「一発処理剤1回」の使用面積比率が減少したのではないかと推測される。

現在では水田栽培圃場のほぼ全面積に一発処理剤が使用されている状況にあり、『一発処理剤1回処理』だけで対応されている面積は60%前後で推移しており、初期剤との組み合わせによる使用『初期剤→一発処理剤』は約25%程度に定着している(図-2)。

地域や立地条件によって使用体系は若干異なってくる。四国・九州では『一発処理剤1回処理』の割合は高く約80%及びそれ以上、一方、東北・北陸では45～50%程度であり、また同地域では初期剤との組み合わせによる一発処理剤の使用が比較的多く、30～35%を占めている。

使用体系の地域的な違いは水稻移植時期から生育初期の気温・水温の高低と、それに伴う雑草の発消長の緩慢さ、あるいは斉一さに起因しているものと理解される。特に中国地域については『一発処理剤1回処理』の比率は平成17年48%、同21年は38%と大きく減少しており、一方『初期剤→一発処理剤』の組み合わせ処理については同31%から43%と増大した。これは中国山

地を中心とした山間部の立地条件および漏水田の面積が大きいことに起因しているのではないかと考えられる(図-3)。

地域的な差はあるものの、使用体系の変化に伴い水稻用除草剤の散布回数について昭和50～56年代は2.2～2.3回の散布と計算されるが、一発処理剤の普及とともに現在では1.7回へと散布回数について減少傾向にある。

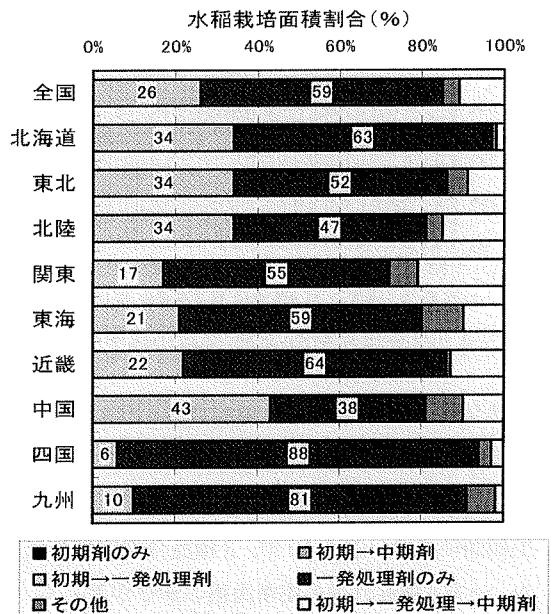
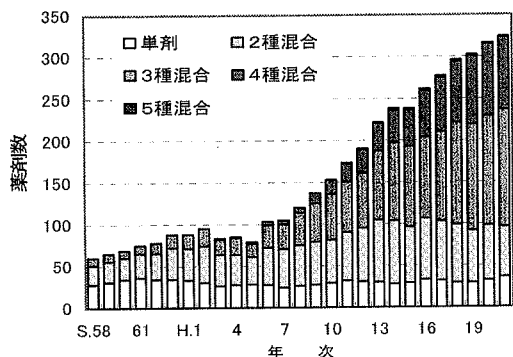


図-3 水稻用除草剤 地域別除草体系
(平成21年 2009)

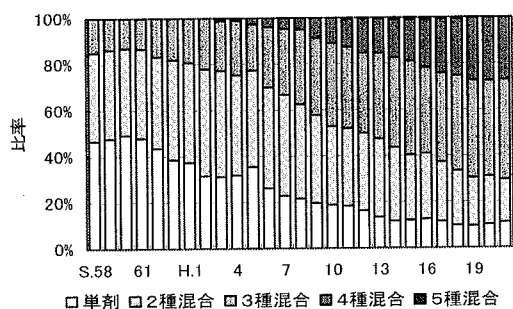
3. 水稻用除草剤の混合剤数と使用面積

水稻用除草剤は当初は単剤の使用で普及が開始されたが、イネ科雑草および広葉雑草対象剤の2種混合剤が普及されるようになり、さらに幅広い殺草スペクトルや効果の確実性を目的として3種あるいは4種混合剤が広く開発・普及されるようになった。

平成21年(2009)の水稻用除草剤324剤のなかで単剤は36剤(11%)、2種混合剤60剤(19%)、3



図－4 水稲用除草剤(全体)混合剤数の推移



図－5 水稲用除草剤(全体)混合剤比率の推移

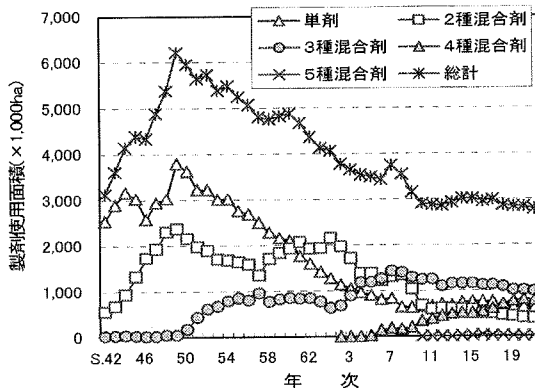
種混合剤 140 剤(43%), 4 種混合剤 87 剤(27%), 5 種混合剤 1 剤(0.3%)である (図－4, 図－5)。

使用面積としては単剤および 2 種混合剤は減少傾向にあり, ここ 10 年, 3 種混合剤はやや減少, 一方 4 種混合剤の使用面積の伸びが著しく, 平成 21 年(2009)は 3 種および 4 種混合剤で 1,768 千 ha と, 水稲用除草剤使用面積(2,786 千 ha)の 63% を占めている (図－6)。

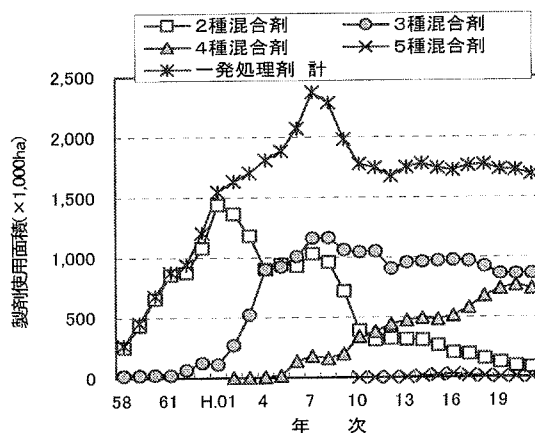
現在, 栽培現場から単剤, 2 種混合剤志向の声が高まっており, それに呼応した新規薬剤も開発されるなか, 今後の変化に注目される。しかしながらこの動きのなか, 新たな抵抗性雑草騒ぎが起こらないような工夫も必要と考える。

4. 有効成分使用量(g/ha)と投下量の推移

1960～70 年代に開発された主要除草剤の多くは, 十分な除草効果を発揮させるには 1 ヘク



図－6 水稲用除草剤全体の混合剤とその使用面積の推移

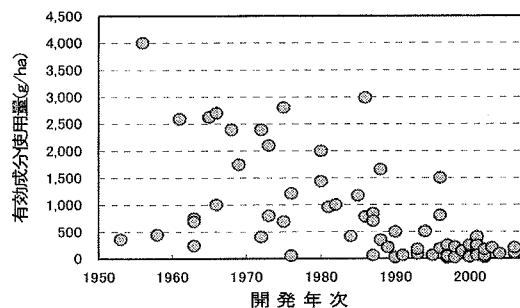


図－7 水稲用一発処理剤における混合剤とその使用面積の推移

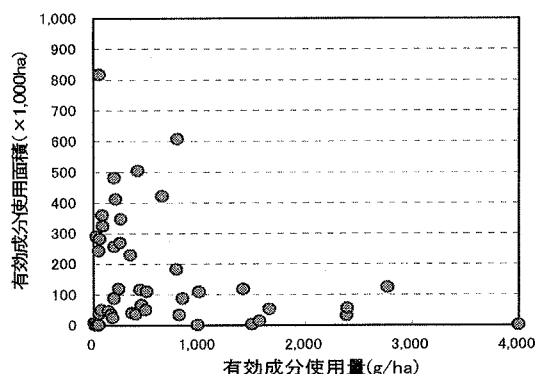
タール当たり 2,000～3,000 g の有効成分使用量を必要としたのに対し, 1990 年代以降, 近年開発されている薬剤の多くは 200 g 以下, あるいは 100 g 以下の極めて少ない薬量で除草効果を示す有効成分へと推移している (図－8)。

平成 21 年(2009)に水田に使用された除草剤有効成分使用面積 7,512 千 ha のうち, 成分使用量 500 g/ha 以下の薬剤で除草剤使用面積の 74% を, さらに 200 g/ha 以下の薬剤で 45% を占めている計算となる (図－9)。

水稲用除草剤は水稲作付面積の全面積に対して使用されている計算となるが, 一発処理剤の普



図－8 水稲用除草剤 開発年次と有効成分使用量



図－9 水稲用除草剤 有効成分使用量と成分使用面積（平成21年）

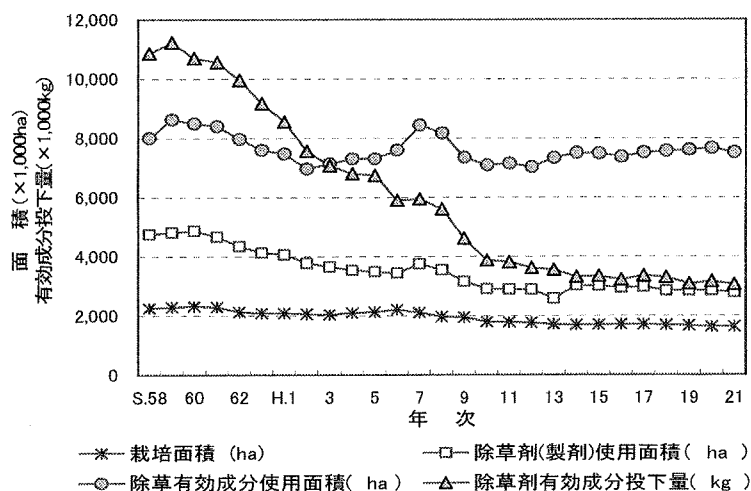
及・利用にともない製剤としての除草剤使用面積は徐々に減少しているものの、一方、有効成分総使用面積としては昭和59年(1984)に約8,630

千haであったものが、この20年間に多少の増減を伴いつつ、平成21年(2009)は約7,512千haと僅か87%への減少でしかない。

一方、水田に使用された有効成分投下量は総量として昭和59年が約11,231千kgであったのに対し、以後、毎年減少傾向にあり、平成21年には約3,051千kgと計算され、この約25年間で27～28%にまで減少している（図－10）。

また、有効成分使用面積当たりの有効成分投下量は昭和59年には1,301g/haであったものが平成21年には406g/haと、この点においても31%にまで減少している。これは使用除草剤1成分の平均使用量(g/ha)の減少とみることができる。

平成21年に水田に使用された46化合物による有効成分の総使用面積は7,512千ha、このうち有効成分量500g/ha以下は30薬剤と半数以上を占め、これらの薬剤による使用面積は約5,554千ha(74%)で、比較的低薬量の薬剤が広範囲に使用されるようになってきたことが有効成分投下量の減少に大きくつながっており、将来に開発段階から減農薬への道が推進されていると考えられる。



図－10 水稲用除草剤使用面積と有効成分投下量の推移

5. 作用機構別開発薬剤数と使用面積

我が国において水稻用に供試された除草剤は、普及にまで至っていない5薬剤を含め平成18年(2006)まで79成分を数えた。図-11は作用機構別の累積薬剤数を示したものである。Auxin

作用, Protox阻害剤, 光合成阻害剤で幕開けした除草剤であるが, 最も開発数の多い薬剤は昭和41年(1966)より登場した細胞分裂阻害剤であり, 40年間で18薬剤が開発された。近年特筆すべきはALS阻害剤で, 最近の20年間で17薬剤が開発されているのが特徴的である。さらに白化作用を有する4-HPDP阻害剤やProtox阻害剤も新たに開発されている。

これらの開発薬剤を背景に, 最も使用面積の大きいのが細胞分裂阻害剤であり, 平成21年(2009)は2,555千ha, 次いでALS阻害剤の1,814千haである。再び使用面積の増大が見られるのは4-HPDP阻害剤の701千ha, Protox阻害剤の539千haであるが, これらは新たに開発された薬剤の普及に依るところが大きい(図-12)。

[以下 その2に続く]

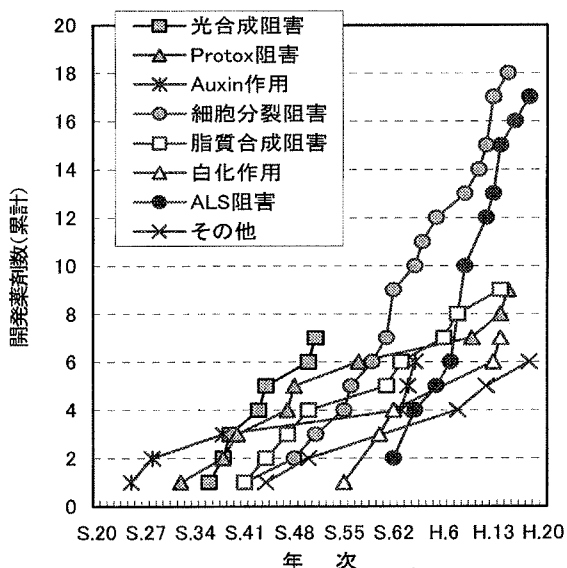


図-11 水稻用除草剤 作用機構別開発薬剤数

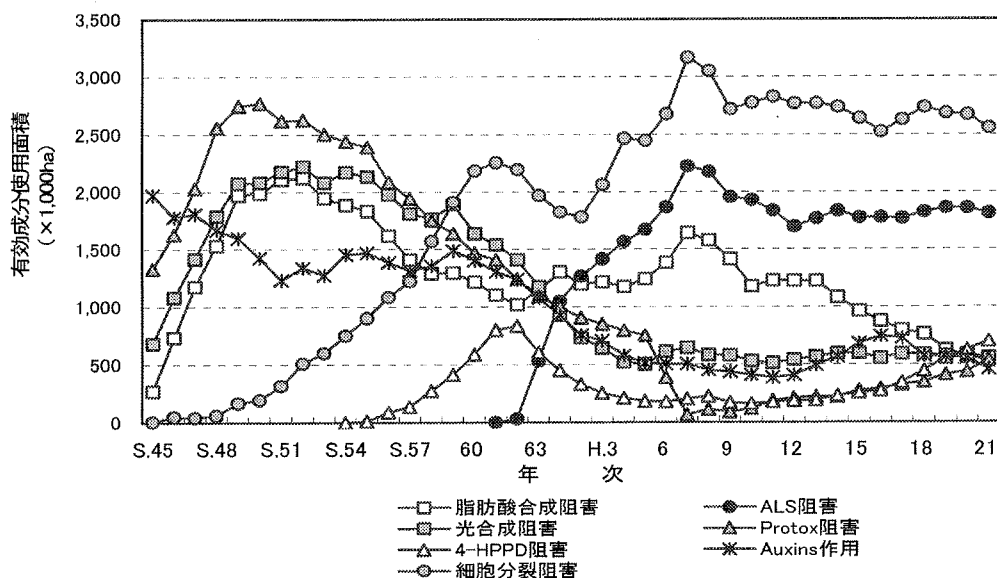
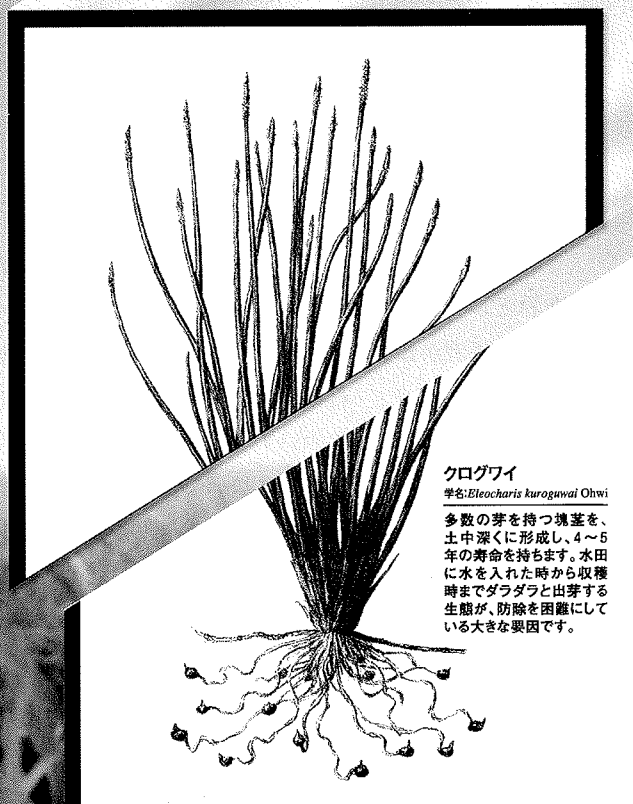


図-12 水稻用除草剤 作用機構別有効成分使用面積の推移

クログワイの悩み、ス。パツと解決。



クログワイ
学名: *Eleocharis kurogumai* Ohwi
多数の芽を持つ塊茎を、土中深くに形成し、4～5年の寿命を持ちます。水田に水を入れた時から収穫時までダラダラと出芽する生態が、防除を困難にしている大きな要因です。

適用拡大で
さらに
使いやすく!

初期剤との体系で、クログワイもしっかり防除。
一発剤よりも遅い時期の散布で、徹底的にたたきます。

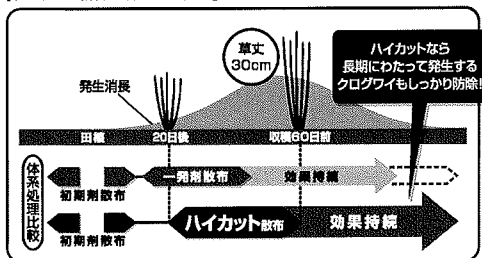
水稲用除草剤

ハイカット®

1キロ粒剤

- ノビエの3.5葉期まで防除
- SU抵抗性雑草にも有効 ●難防除雑草に卓効

[クログワイ防除の体系処理比較]



©は日産化学工業(株)の登録商標

★日産化学工業株式会社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 (興和一橋ビル) TEL 03 (3296) 8141 <http://www.nissan-agro.net/>

切り枝の植物生育調節剤を利用した開花促進技術 —サクラ‘啓翁桜’切り枝の早期促成12月出し栽培に おけるシアナミド液剤とジベレリン水溶剤の利用技術—

山形県農業総合研究センター 園芸試験場 佐藤武義・酒井友幸・高橋佳孝¹・
佐藤裕則²・小野恵二³

1. はじめに

サクラの切り枝は、春を彩る花材として需要が増加していることから、流通販売関係者からは、新春（正月）需要に対応するため、年内の12月から花見シーズンの4月までの出荷が期待されている。山形県では、冬期間の収益作物として、サクラの品種の中で‘啓翁桜’（*Prunus × keio-zakura* Ohwi cv. Keio-zakura）の生産振興を図り、また、中山間地域等の水田転作や遊休畑地等の有効利用を推進している。2008年における栽培面積は181ha、出荷数量は1,677千本、産出額は約2億円となっており、2000年対比では栽培面積147%、出荷数量172%、産出額200%と増加している。‘啓翁桜’の生産が拡大した要因の一つとして、休眠特性を踏まえた早期促成12月出し栽培（以下、早期促成と表す）技術の開発と、早期促成技術の普及と新春用の花材としての需要開拓が併行して行われてきたことがあげられる。

ところで、サクラを早期に開花させるには、低温遭遇による花芽の休眠打破が必要となるが、‘啓翁桜’は‘小彼岸桜’や‘染井吉野’と比較して少ない低温遭遇量で休眠が打破される特性を持っている。本県における‘啓翁桜’の自然低温遭遇後の切り枝促成開始（加温）の前進限界期は12月下旬～1月上旬頃であり、この時期以降に加温を開始すると、1月中旬～下旬頃の開

花期となり、開花率が高く、開花揃いの良い商品性のある切り枝が得られる。一方、開花期をさらに前進させようとする、休眠を積極的に打破する必要があることから、これまで、当該においては、‘啓翁桜’の休眠特性と休眠打破処理方法について多くの調査が行われてきた。その結果、‘啓翁桜’の早期促成においては、切り枝の温湯浸漬と8℃の低温処理により開花が促進され、開花率が高まることや（勝木ら、1979；勝木、1989）、温湯浸漬は、40℃で45～60分処理が効果的であることや（小野ら、1979）、温湯浸漬後に切り枝にジベレリンやカルシウムシアナミドが主成分である石灰窒素を処理すると、開花が促進され、開花率が高まることが明らかにされている（小野ら、1979；小野・岡崎、1982）。

一方、近年、花芽の休眠打破に必要な低温遭遇量は、切り枝収穫期前の10～11月の年次変動が大きく、不安定になっていることから、低温遭遇量に適応した休眠打破処理方法を明らかにすることが必要となっている。そこで、サクラ‘啓翁桜’の早期促成において、シアナミド液剤またはジベレリン水溶剤の散布処理や、温湯浸漬とシアナミド液剤またはジベレリン水溶剤の散布処理を併用した休眠打破処理方法が開花と小花品質に及ぼす影響について調査したので紹介する。

2. 材料および方法

供試材料は、サクラ‘啓翁桜’の1993年定植樹から繰り返し再生させた枝を用いた。秋季に切り枝を行い、葉が着生している場合は摘葉を行い、90cmの長さに調整した。切り枝の促成は、12月上旬から中旬に休眠打破処理後直ちにガラス温室に入室して開始し、ハウス内気温は夜温13℃、昼温は最高気温20℃を目標に加温した。促成中の水揚げは水道水で行い、切り枝の基部が10cm程度水にひたるようにし、促成開始から概ね1週間後および2週間後に水を取り替えて切り口の腐敗を防いだ。休眠打破処理として、シアナミド液剤（電気化学工業（株）、ヒットα13、シアナミド13%含有または日本カーバイド工業（株）、CX-10、シアナミド10%含有）またはジベレリン水溶剤（協和発酵バイオ（株）、ジベレリン協和粉末、ジベレリン3.1%含有、以下、GAと表す）は、設定した倍率の水溶液を切り枝が充分濡れるように1枝当たり約20mLを目安にハンドスプレーで全面散布した。温湯浸漬は40℃・60分間浸漬とし、併用処理の場合は温湯浸

漬後に設定した倍率の各剤の水溶液を散布した。

3. 結果の概要

（1）シアナミド液剤またはジベレリン水溶剤の休眠打破効果

8℃以下の低温遭遇量を591時間として、休眠打破処理方法をヒットα30倍、CX-1020倍、GA25ppmと、予備試験結果を踏まえてシアナミド液剤の濃度を薄くして温湯浸漬を併用した温湯+ヒットα60倍、温湯+CX-1040倍、温湯+GA25ppm、温湯、無処理として、到花日数と開花率および小花の花径と花梗長を調査した。その結果、到花日数は無処理区と比較して処理各区が4～7日早くなった（データ略）。開花率は、無処理区と比較して処理各区が大幅に高くなり、また、温湯浸漬併用処理各区は80%以上とさらに高くなった（図-1A）。小花の花径は、温湯+GA25ppm区が最も大きくなり、次いで、温湯+ヒットα60倍と温湯+CX-1040倍が大きき、温湯区は小さくなった（図-1B）。花梗長は温湯+GA25ppm区が適度な長さとなり、次

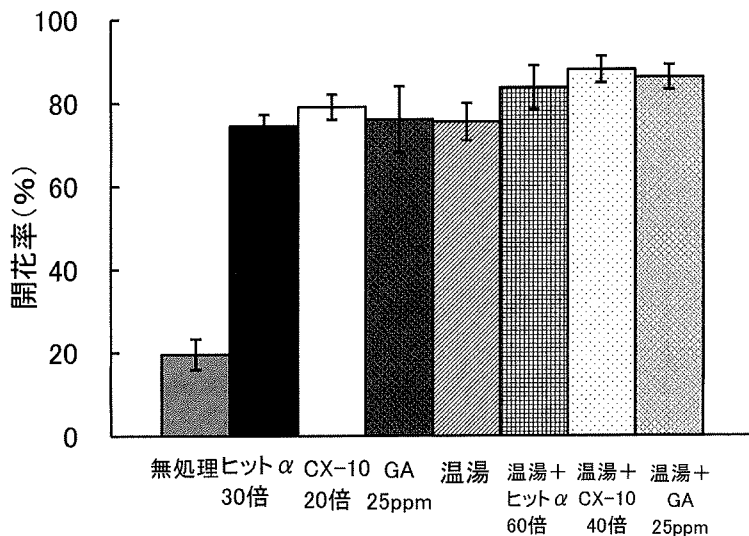


図-1 A 休眠打破処理方法が開花率に及ぼす影響
図中の縦線は標準誤差を示す (n=5)



図-1 B 小花品質の外観（左から無処理，温湯，温湯+シアナミド液剤，温湯+ジベレリン水溶剤）

いで，温湯+ヒット α 60倍と温湯+CX-10 40倍が長く，温湯区は短くなった。このように，シアナミド液剤またはジベレリン水溶剤の切り枝全面散布により開花が促進し，開花率が大幅に高くなった。また，その効果は温湯浸漬と併用することによりさらに高くなり，小花の品質が向上することが明らかになった。

(2) 低温遭遇量と温湯+ジベレリンの休眠打破処理効果

8℃以下の低温遭遇量を424時間，617時間，810時間として，休眠打破処理方法を温湯+GA50ppm，温湯+GA25ppm，温湯，無処理として，到花日数と開花率および小花の花梗長

を調査した。その結果，到花日数は，低温遭遇量617時間の温湯+GA各区が26日と最も短く，617時間と810時間の温湯区は29日と遅く，424時間の温湯区と無処理区および617時間の無処理区は未開花となった（データ略）。開花率は，低温遭遇量617時間および810時間の温湯または温湯+GA各区が80%以上と高く，810時間の無処理区は47%と低く，424時間ではさらに低くなり処理効果が小さかった（図-2A）。小花の花梗長は温湯+GA50ppm区が最も長く，次いで，温湯+GA25ppm区が長く，温湯区は短くなった（データ略）。なお，温湯+GA50ppm区の低温遭遇量617時間以上では，花梗長が30mm前後と長く軟弱となった。このように，8℃以下の低温遭遇量617時間以上では休眠打破処理により開花率が80%以上と高くなることが明らかになった。そこで，8℃以下の低温遭遇量を413時間，462時間，500時間，600時間とし，休眠打破処理方法を温湯+GA50ppm，温湯+GA25ppm，温湯，無処理として到花日数と開花率および小花の花梗長を調査した。その結果，到花日数は，低温遭遇量

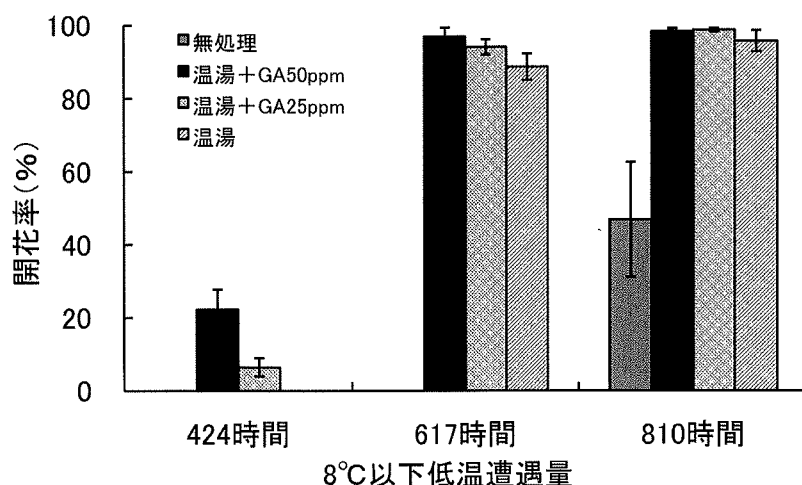


図-2 A 8℃以下低温遭遇量が開花率に及ぼす影響
図中の縦線は標準誤差を示す (n=5)

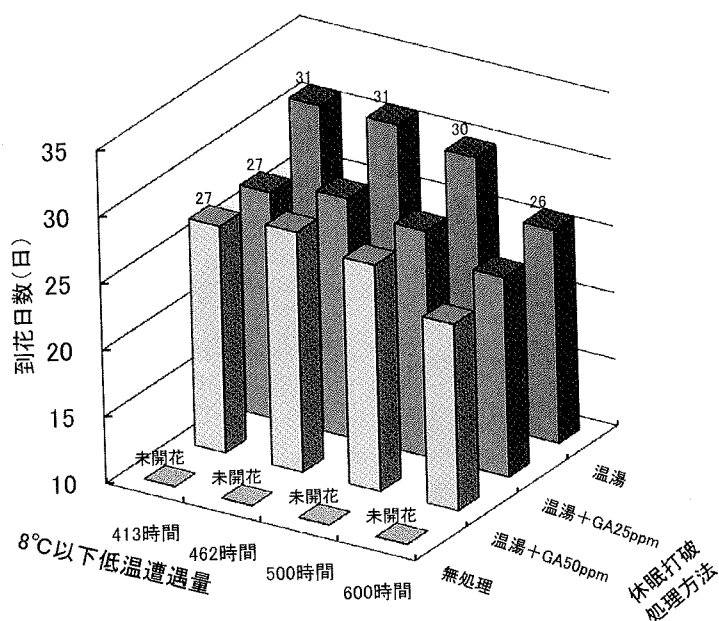


図-2 B 8°C以下低温遭遇量と休眠打破処理方法が到花日数に及ぼす影響

600時間の温湯+GA各区が24～25日と最も短く、413時間と462時間および500時間の温湯区は30～31日と遅くなり、無処理区では各低温遭遇量とも未開花となった(図-2B)。開花率は、低温遭遇量500時間の温湯+GA各区と600時間の処理各区が80%以上と高くなった(図-2C)。一方、低温遭遇量413時間では処理各区とも11～42%と低く、462時間でも処理

各区とも47～59%とやや低くなった。小花の花梗長は、温湯+GA各区が16～22mm程度と自然開花期と同じように適度の長さとなった(データ略)。以上のことから、8°C以下の低温遭遇量500時間および600時間では、温湯+GA処理により開花率が高くなり、また、小花の品質も良好となることが明らかになった。

現在、サクラ‘啓翁桜’切り枝の早期促成にお

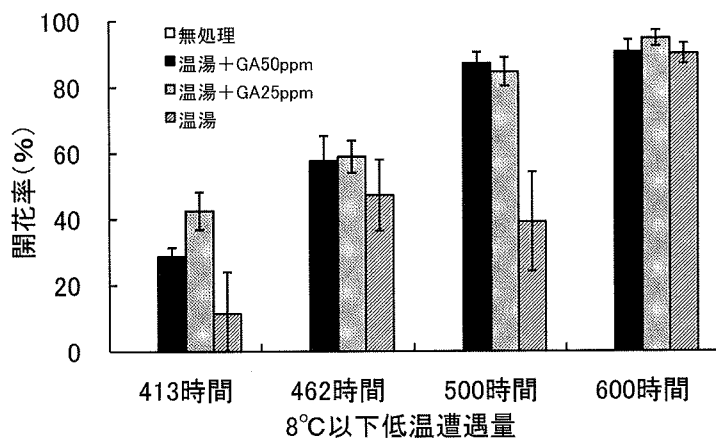


図-2 C 8°C以下低温遭遇量が開花率に及ぼす影響
図中の縦線は標準誤差を示す (n=5)

いては、シアナミド液剤またはジベレリン水溶剤が広く利用されており、開花率と開花揃いの安定化が実現し、高品質生産につながっている。産地における樹の養成から早期促成までの概要は、図-3A から図-3F のとおりである。



図-3 A 作付けは山間地や転作圃場に多く、定植後約3～4年の養成期間を経て切り枝収穫が可能となる。



図-3 B 春季に花芽着生増進を目的に環状剥皮が行われ、切り枝の最盛期は積雪前の11月下旬頃となる。

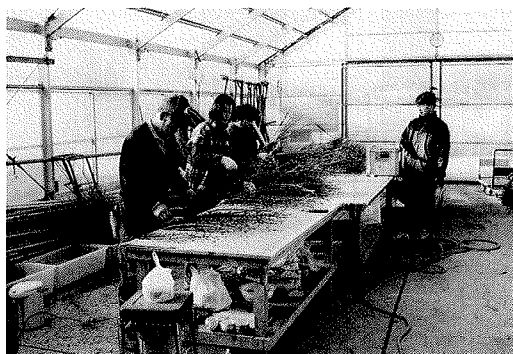


図-3 C 近年、長さ80～90cm程度のホームユース規格の需要が増加している。

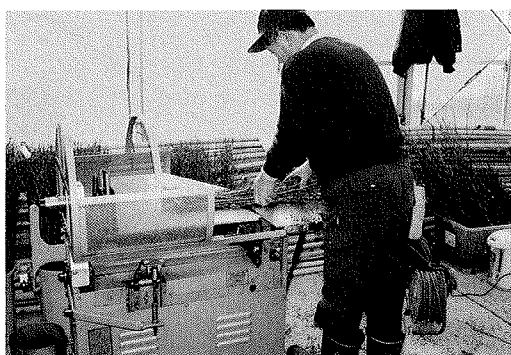


図-3 D 10本1束に結束して、直後に充分に水揚げを行う。



図-3 E 大型コンテナを利用した温湯浸漬処理槽。休眠打破処理として、40℃・1時間の温湯浸漬処理後にシアナミド液剤またはジベレリン水溶剤を処理する。



図-3 F 休眠打破処理後に促成室に入室した切り枝。この促成室では、出荷時に枝を選別して束作りを行っている。

謝辞

本報告の内容は、農薬登録適用拡大試験の一部であり、試験設計作成にあたり貴重な御助言をいただいた日本大学 腰岡政二教授、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所 西島隆明博士に感謝申し上げます。また、試験に御協力をいただいた電気化学工業(株)、日本カーバイド工業(株)、協和発酵バイオ(株)の担当諸氏に感謝申し上げます。

引用文献

勝木謙蔵・小野恵二・布宮徹・阿部清・椎名徳夫.
1979. サクラの早期促成に関する研究(第1報)
花芽の低温遭遇効果に対する温湯の影響ならび
に温度処理について. 園学要旨. 昭54年秋:
386-387.

勝木謙蔵. 1989. サクラ枝物の早期促成に関する研究. 山形県立園芸試験場特別研究報告. 4. :
22-44.

小野恵二・布宮徹・勝木謙蔵. 1979. サクラの
早期促成に関する研究(第2報)冷蔵促成におけ
る温湯・ジベレリン・石灰チッソ・くん煙の利用
効果について. 園学要旨. 昭54年秋:388-389.

小野恵二・岡崎幸吉. 1982. サクラの無冷蔵枝
に対する温湯と石灰チッソの休眠打破効果に
ついて. 園学要旨. 昭57秋:544.

¹現在:置賜総合支庁農業技術普及課

²現在:庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室

³現在:村山総合支庁農業技術普及課西村山農業
技術普及課

農から生まれる笑顔の連鎖



NEW 石原の水稻除草剤

スケダチ® 1キロ粒剤

フルチャージ® 1キロ粒剤・ジャンボ

フルフォース® 1キロ粒剤

タイスミドリ® 1キロ粒剤

トビキリ ジャンボ

コンソールS 1キロ粒剤

グラスジーンM ナワラム

ワンベストフロアブル

キングダム フロアブル Lフロアブル

2,4-D剤/MCP剤

安全にお使いください
農薬の取扱いには必ず
説明書をお読みください
石原は「食の安全」を大切にします

ISK 石原産業株式会社
石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番30号
ホームページ <http://www.iskweb.co.jp/ibj/>

静岡県におけるヒロハフウリンホオズキの発生状況について

静岡県農林技術研究所作物科 科長 木田揚一

はじめに

10年程前に、現地の大豆栽培圃場にセンナリホオズキ(実は、ヒロハフウリンホオズキ)が蔓延し、大豆子実の汚損の発生原因になっていると聞き、現地圃場で見かけたのが、ヒロハフウリンホオズキを初めて知ったときである。大豆栽培農家は、大豆収穫前に多大な労力を費やし手取り除草をしていた。

ヒロハフウリンホオズキの大豆作で問題となることは、茎葉や果実が大豆収穫時まで枯れることなく水分を十分に含み、特に果実のジュースが大豆子実の汚損の原因となることである。

第4回畑作雑草研究会(2004年12月6日)において、大豆圃場におけるヒロハフウリンホオズキの蔓延の実態を報告したとき、「出席者の驚きの顔」と「どうしてそこまで蔓延するまで

に対策を行わなかったのか」と厳しい指摘を受けたことを思いだす。その後、関係機関と一体となり少しでも対策を行わなければと、現地の実態調査やいくつかの防除試験を行った。



図-2 大豆収穫前の手取り除草
(現地では、有効な防除手段がないため、手取り除草を行っている。)



図-1 ヒロハフウリンホオズキ蔓延圃場
(極めて蔓延が進んだ大豆圃場では、大豆の茎葉が見えなくなる。)



図-3 大豆収穫前のヒロハフウリンホオズキ侵入圃場
(大豆収穫期になっても、ヒロハフウリンホオズキの茎葉は、枯れることなく青々している。)

ヒロハフウリンホオズキとホソバフウリンホオズキ

静岡県の中遠地域は大豆作が盛んなところであるが、ヒロハフウリンホオズキが侵入・拡大し問題になっている。現地圃場を確認すると、ヒロハフウリンホオズキが圧倒的に多いが、ホソバフウリンホオズキも混在している。形態的には、葉の長さ(形)が異なる他は、極めて類似している。

ベンタゾン液剤に対する感受性を見るためにポット試験で行った時に、ホソバフウリンホオズキは簡単に枯死し、ヒロハフウリンホオズキは枯れなかったことが印象的であった。雑草研究を始めたばかりで何も知らない筆者は、こんなに類似した雑草なのに、薬剤感受性が異なることが信じられなかった。

1 果実当たりの種子数

ところで、ヒロハフウリンホオズキの一つの果実には、何粒の種子が含まれているのか? センナリホオズキと現地の農家が言っていたことから、当然、雑草研究を始めたばかりの筆者は、1000個くらいの種子が含まれていると思っていた。ところが、共同研究機関の静岡大学が調査したところ約150粒の種子が含まれていることがわかった。1000個までには及ばないが、直径1cm前後の果実の中に100個以上も含んでいることは、やはり多くの種子を含んでいることに間違いはなかった。またヒロハフウリンホオズキの個体の大きさにより、結実する果実数は当然異なるが、大きい固体では200個以上、小さい固体では20個程結実する可能性がある。

種子1個の大きさは極めて小さいが、圃場で残存した大きな個体は、身長と同じくらいの高さになる。小さな一粒から、大きな個体に成長し、そして極めて多く種子を供給する「やっか

いな雑草」である。

また、非常に困ることは、圃場に供給された種子の一部は翌年出芽せず、シードバンクを形成することである。これも、共同研究機関の静岡大学の調査結果であるが、ヒロハフウリンホオズキは種子の死滅割合が低く、種子散布一年後でも30～60%生存するようである。

現地での発生状況

2003年から2006年の4ヵ年にかけて、中遠地域の大豆栽培団地(16ha、63筆)の雑草発生状況を観察した。

静岡県では、7月上旬頃に大豆を播種するが、ヒロハフウリンホオズキは大豆播種直後から発生し始め、8月中旬頃まで発生が続く。大豆の生育が不良の時は、特に発生量が多くなるようである。また、夏期に水稻を作付けても、翌年の大豆作でも発生が見られる。1年程度の湛水では、ヒロハフウリンホオズキの種子は死滅しないようである。大豆の生育の良否が、ヒロハフウリンホオズキの発生に大きく影響しているようであった。

また、大豆の初期生育が悪かったために、生育を回復しようとして中耕培土を行い、その結果、土壌表面を攪乱しヒロハフウリンホオズキの再発生を促し、多くの雑草を生やしてしまった圃場もあった。例年、ヒロハフウリンホオズキの発生が多い圃場では、中耕培土のタイミングが重要で、大豆が畝間を覆う直前頃に行うことがよいのではと考えている。

発生の多い圃場では、畦畔にヒロハフウリンホオズキが多く存在していることから、圃場内の防除と共に、畦畔の雑草防除に努める必要がある。

播種直後の土壌処理型除草剤は効果あるのか

現地でこのように多発していると、つい除草

剤（土壌処理型）が効かないと思いがちであるが、実際はそれなりの効果があるようである。過去に試験を行ったことがあるが、除草剤無散布に対する除草剤（ジメテナミド・リニュロン乳剤）散布の発生割合は約20%であった。

狭畦栽培による雑草抑制

実験系での遮光試験の結果では、出芽直後から85%の遮光資材で被覆すると、ヒロハフウリンホオズキの生育が強く抑制されることを確認している。現地の圃場も、大豆の生育が良く、早期に畦間を豆の茎葉で被陰された圃場ではヒロハフウリンホオズキの発生が少ないことを観察している。

これらのことから、その特性を利用した大豆の栽培法として、畦幅を狭めた大豆の狭畦栽培

が有効と思われる。大豆の狭畦栽培は、畦間を早期に被陰でき、ヒロハフウリンホオズキの残存個体数を減らすことができることを現地で確認した。

しかし、本県の大豆奨励品種「フクユタカ」は、狭畦栽培をすることで主茎長が長くなり、倒伏が発生するため、現地での大豆狭畦栽培の普及は進んでいない。今後、耐倒伏性に優れた品種を導入すれば、ヒロハフウリンホオズキの有効な耕種的防除法になると考えられる。

最後に

ここ数年に、新しい試みとして非選択性除草剤の畝間散布が行われるようになってきている。狭畦栽培では、大豆への飛散など検討する余地はあるものの、この技術を組み合わせた防除法の開発が望まれる。

Quality & Safety

消費者・生産農家の立場に立って、安全・安心な
食糧生産や環境保護に貢献して参ります。

SDSの水稲用除草剤成分 「ベンゾピシクロン」含有製品

SU抵抗性雑草対策に! アシカキ、イボクサ対策にも!

シロノック(フロアブル/ジャンボ/1キロ粒剤)
オークス(フロアブル/ジャンボ/1キロ粒剤)
サスケ-ラジカルジャンボ
トビキリジャンボ
イッテツ(フロアブル/1キロ粒剤/ジャンボ)/ボランティアジャンボ
テラガード(フロアブル/1キロ粒剤/ジャンボ/250グラム)
キチット(1キロ粒剤/ジャンボ/フロアブル)

新製品 非SU ... スマート(フロアブル/1キロ粒剤)

新製品 非SU ... サンシャイン(1キロ粒剤/ジャンボ/フロアブル)

新製品 非SU ... イネキング(1キロ粒剤/ジャンボ/フロアブル)

新製品 非SU ... ピラクロエース(フロアブル/1キロ粒剤)

新製品 ... 忍(フロアブル/1キロ粒剤)

新製品 ... ハーディ1キロ粒剤

非SU ... テロス(フロアブル/1キロ粒剤/250グラム)

非SU ... カービー1キロ粒剤

ハイカット/サンパンチ1キロ粒剤

ダブルスターSB(1キロ粒剤/ジャンボ/顆粒)

新製品 ... シリウスターボ(フロアブル/1キロ粒剤/ジャンボ)

シリウスいぶき(1キロ粒剤/ジャンボ/顆粒)

新製品 ... プラスワン(1キロ粒剤/ジャンボ/フロアブル)

新製品 ... ゲキハ/ボス1キロ粒剤

非SU ... イネエース1キロ粒剤

非SU ... ウエスフロアブル

非SU ... フォーカスショットジャンボ/ブレッサフロアブル



株式会社 **エスディーエス バイオテック**

〒103-0004 東京都中央区東日本橋一丁目1番5号 ヒューリック東日本橋ビル
TEL.03-5825-5522 FAX.03-5825-5502 <http://www.sdsbio.co.jp>

平成22年度 畑作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成22年12月2日(木)～3日(金)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者35名、委託関係者55名ほか、計121名の参集を得て、除草剤の作用性試験11薬剤、

適用性試験36薬剤、生育調節剤の作用性試験1剤、適用性試験4剤、及び展着剤1剤について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成22年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの									
薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用基準					使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
AC-263液 イマザモックスアンモニウ ム塩 0.85% [BASFジャパン]	大豆	実	一年生広 葉雑草	茎葉兼 土壌 (全面)	大豆出芽直前 ～播、雑草発生 始～本葉展開 期	200～ 300mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・作物に飛散しないように散 布する ・体系処理;イネ科雑草対象 の土壌処理剤を使用する
AH-01液 グルホシネートPナトリウ ム塩 11.5% [明治製菓、北興 化学工業]	大豆	実・ 継	一年生雑 草	茎葉	耕起または播種 前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	東北以南	・播種後出芽前処理 における水量150Lで の年次変動の確認 (東北以南)
				茎葉 (畦間)	大豆生育期 雑草生育期			全域	・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
				茎葉 (畦間・ 株間)	大豆生育期(本 葉5葉期以降)、 雑草生育期(草 丈20cm以下)				・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る
	大豆 (収穫前 全面散布)	継							・収穫前全面茎葉処 理での効果、葉害の 確認(東北以南)
	ばれいしょ	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉	ばれいしょ植付 後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	100～ 200mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	
				茎葉 (畦間)	ばれいしょ生育 期 雑草生育期	300～ 500mL <水量100 ～150L>			・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
	ごんにかく	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉	ごんにかく植付 後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	
				茎葉 (畦間)	ごんにかく生育 期 雑草生育期				・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
AK-01液 グリホサートイソプロピ ルアミン塩 41% [TAC普及会]	菜豆	実	一年生雑 草	茎葉	耕起または播種 前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	250～ 500mL<水 量25～ 50L>	全土壌	東北以南	・少量散布専用ノズルを使 用する
	かんしょ	継							・効果、葉害の確認

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	使用標準					使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
AL-513乳 アラコール 30%、 リニエロン 12% [日産化学工業]	大豆	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	
ALH-0831乳 クレジム 23% [アサダ ライフサイエ ンス]	大豆	実・ 継	一年生イ ネ科雑草(スズ メノカタビラを 除く)	茎葉	大豆生育期、 イネ科雑草 3～5葉期	35～50mL <水量 100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する ・イネ科雑草6～8葉期 処理での年次変動の 確認(北海道/東北以 南)
					大豆生育期、 イネ科雑草 5～8葉期 (草丈30cm以下)	50～75mL <水量 100L>			
			スズメノカタ ビラ		大豆生育期、 イネ科雑草 3～5葉期				
ANK-553(改)乳 ヘンデメタリン 30% [BASFジャパン]	かんしよ	実	一年生雑 草	土壌 (畦間)	かんしよ播種後、 雑草発生前	200～ 400mL<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・作物に飛散しないように散 布する ・キタ科、ツクサには効果が劣る
	おけら(育 苗圃)	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～ 300mL<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・キタ科、ツクサには効果が劣る
	おけら(本 圃)				植付後萌芽前 雑草発生前				
					おけら生育期 雑草発生前				・中耕または培土後に使用す る ・キタ科、ツクサには効果が劣る
BAH-0805乳 シメタミドP 19.7%、 ヘンデメタリン 23.1%(w/w) [BASFジャパン]	とうもろこし (飼料用お よび食用)	実・ 継	一年生雑 草	土壌	とうもろこし播種 後～2葉期、 イネ科雑草2葉期 まで	200～ 400mL<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・スズメノカタビラに対す る効果について年次 変動の確認(北海道)
	ばれいしよ	—							(作用性)
BAS-656乳 シメタミドP 64% [BASFジャパン]	とうもろこし (飼料用、食 用)	実・ 継 (従来ど おり)	一年生雑 草 (アカザ科、ア ブラナ科、タ デ科を除く)	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	75～ 120mL<水 量100L>	全土壌 (砂土を 除く)	東北以南	・出芽前～揃期処 理での効果、被害の 確認(飼料用、食用) ・播種後出芽前処 理での効果、被害の確 認(北海道:飼料用、 食用)
			一年生イ ネ科雑草 (スズメノカタビ ラを除く)		とうもろこし1～2 葉期、 イネ科雑草2葉期 まで			北海道	
BCH-081フロアブル シフルフェニカン 8.4% フルフェナセット 33.6% [バリエルグループサイ エンス]	春播小麦	—							(作用性)
CG-119 α 乳 S-トラコール 83.7% [シンジェンタ ジャパ ン]	かんしよ	実・ 継	一年生雑 草	土壌	かんしよ播種後、 雑草発生前	70～ 130mL <水量 70L>	全土壌(砂 土を除く)	温暖地以 西 全域	・広葉雑草(特にアカザ科)には 効果が劣るので、イネ科雑草優 占圃場で使用すること ・有機物の多い土壌や粘土 質の土壌では所定範囲内で 多めの薬量を散布する
					かんしよ播種前、 マルチ前、 雑草発生前	70～ 130mL <水量70 ～100L>			
DPX-16顆粒水和 チフェンスフロムメチル 75% [デュポン]	とうもろこし (飼料用)	実・ 継	一年生広 葉雑草、キ シキン	茎葉	とうもろこし 3～5葉期、 雑草生育期	2～4g<水 量100L>	全土壌	全域	・葉の退色、萎凋、生育抑制を 生じることがある ・とうもろこし2～3葉 期処理での、一年生 広葉雑草に対する効 果の確認(東北以南) ・少水量(25.50L)散 布での効果、被害の 確認(東北以南) ・葉害の発生要因に ついて
			キシキン		とうもろこし2～3 葉期、 雑草生育期	2g <水量 100L>		東北以南	

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	使用規程					使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
HCW-201フロア ル DCMU 50% [保土谷UPL、 北興化学]	大豆	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	150～ 200mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・タデ類には効果が劣る ・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る ・イネ科雑草が2葉期より生育 している場合には展着剤を加 用する
			茎葉兼 土壌 (畦間・ 株間)		大豆生育期 (本葉5葉期以 降)、 雑草生育期 (草丈15cm以下)	150～ 200mL <水量 100L>			
	小豆	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	150～ 200mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・タデ類には効果が劣る ・過湿条件では黄化や生育 抑制を生じることがある ・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈15cm以下で散 布する ・イネ科雑草が2葉期をこえる 場合には、展着剤を加用する
			茎葉兼 土壌 (畦間)		小豆生育期、 雑草生育期	100～ 200mL <水量 100L>			
HCW-201フロア ル つづき	さとうきび (株出)	実・ 継	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・多年生広葉雑草に 対する効果の確認
	さとうきび (春植)	実・ 継	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・多年生広葉雑草に 対する効果の確認
	さとうきび (夏植)	継							・効果、葉害の確認
HMB-0901フロア ル フェンメチファム 9.0%、 メタミロン 27.0% [ホクサン]	てんさい (移植)	実・ 継	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい定植活 着後、 雑草発生摘期	500～ 700mL <水量50 ～80L>	全土壌	北海道	・展着剤を加用する ・クーンハには効果が劣る場合 がある
Hoe-866液 グルホシネート 18.5% [バイエル クロップサイ エンス]	大豆	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	大豆生育期 雑 草生育期	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する ・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る
			茎葉 (畦間・ 株間)		生育期(本葉5葉 期以降)、雑草生 育期(草丈20cm 以下)				
	ばれいしょ	実	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	ばれいしょ生育 期、 雑草生育期	300～ 500mL <水量 100L>	全土壌	北海道	・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
HPW-102水和 DCMU 80% [保土谷UPL]	さとうきび (株出)	実	一年生雑 草、多年生 広葉雑草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	
	さとうきび (春植)	実	一年生雑 草、多年生 広葉雑草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・新植では生育、分げつ抑制 を生じる事がある ・メソキタハミには効果が劣る 場合がある
	さとうきび (夏植)	実・ 継	一年生雑 草、多年生 広葉雑草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・新植では生育、分げつ抑制 を生じる事がある
HPW-105乳 トリフルアリン 33% IPC 11% [*保土谷UPL、タ ウケミカル日本]	大豆	継							・効果、葉害の確認
HPW-108マイクロ カプセル 既知化合物 45% [保土谷UPL]	とうもろこし (食用)	一							(作用性)

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
HSW-9104s乳 デスメディファム 2.3% フェンメディファム 10% S-メトラクロール 7.5% [ネクサン]	てんさい (移植)	実・継 へ従来どおり	一年生雑草	茎葉兼 土壌	てんさい定植活 着後、 雑草発生前期	500mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・タデ科に効果が劣る場合がある	・水量50L処理での 効果、葉害の確認(北 海道)
MAH-0801顆粒 水和 エトフメセート 6.5% フェンメディファム 6.5% メタミロン 28% [マクテム・アガン・ ジャパン]	てんさい (移植)	実	一年生雑草	茎葉兼 土壌	定植活着後、 雑草発生前期	400～ 600g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・展着剤を加用する	
MAH-0901フロアブル エトフメセート 15% メタミロン 35% [マクテム・アガン・ ジャパン]	てんさい (移植)	継								・効果、葉害の確認 (北海道)
NC-3607フロアブル キザロホップエチル 7% [日産化学工業]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉	大豆生育期、 イネ科雑草 3～8葉期 (草丈30cm以下)	200～ 300mL <水量25 ～100L>	全土壌	北海道	・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する。 ・少水量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・少水量25～50Lへの 拡大(東北以南)
					大豆生育期、 イネ科雑草 3～10葉期	200～ 300mL <水量 100L>		東北以南		
NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～ 500mL <水量25 ～100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・収穫前全面茎葉処理での 効果、葉害について年次変動の 確認
					播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)					
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期				・作物に飛散しないように散布する ・少水量(25～50L)の場合は 専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
				茎葉	大豆黄葉摘期 ～成熟期(収穫7日以前)。 雑草生育期	500～ 1000mL <水量50 ～100L>			・黄葉摘期とは、着生葉のほとんどが 黄化した時期を目安とする ・成熟の遅れた株に散布すると、子実の 変色やしわ粒等が発生する場合がある ・水分含量の高い果実をつけた雑草では、 茎葉は枯れても果実が残る場合がある	
	かんしょ	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前、 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～ 500mL <水量25 ～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合 は専用ノズルを使用する	・播種直前処理での 葉害の確認
				茎葉 (畦間)	かんしょ生育期、 雑草生育期				・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する ・少水量散布(25～50L)の場合 は専用ノズルを使用する	
NH-9301液 ピラフルフェンエチル 2.0% [日本農業]	春播小麦	実	一年生広葉雑草	茎葉	小麦2～4葉期 (広葉雑草2～4葉期)	50～ 100mL <水量 100L>	全土壌	北海道	・一過性の白斑を生じる場合 がある	

A.除草剤											注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの
薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意		
NP-55乳 セトキシジム 20% [日本曹達]	大豆	実	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラ除く)	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期	150～200mL ＜水量25～150L＞	全土壌	北海道	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する		
					大豆生育期、イネ科雑草5～8葉期	150～200mL ＜水量100～150L＞		東北以南			・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する
					大豆生育期、イネ科雑草5～8葉期 (草丈30cm以下)	200mL ＜水量100L＞		全域			
	ばれいしょ	実	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	茎葉	ばれいしょ生育期、イネ科雑草3～5葉期	150～200mL ＜水量100～150L＞	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する		
					ばれいしょ生育期、イネ科雑草5～8葉期 (草丈30cm以下)	200mL ＜水量100L＞		北海道			
	てんさい (育苗期、 ヘーバーボット)	実	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	茎葉	てんさい育苗期、 イネ科雑草1～3葉期	150～300mL ＜水量150L＞ (0.3～0.6mL (水量300mL) /ヘーバーボット6冊)	全土壌	全域			
NP-55乳 つづき	てんさい	実	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラ除く)	茎葉	てんさい生育期、 イネ科雑草3～5葉期	150～200mL ＜水量25～150L＞	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する		
					てんさい生育期、 イネ科雑草5～8葉期 (草丈30cm以下)	200mL ＜水量100L＞					
NP-61乳 デフラキシジム 10% [日本曹達]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期	75～100mL ＜水量100L＞	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	・50mL処理での効果の確認	
			一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラ除く)		大豆生育期、イネ科雑草5～8葉期			東北以南			
			一年生イネ科雑草		大豆生育期、イネ科雑草8～10葉期 (草丈30cm以下)						
	ばれいしょ	継								・効果、被害の確認	
	てんさい	実	一年生イネ科雑草	茎葉	てんさい生育期、イネ科雑草3～5葉期	75～100mL ＜水量100L＞	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する		
一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)			てんさい生育期、イネ科雑草5～8葉期 (草丈30cm以下)								
多年生イネ科雑草			てんさい生育期、イネ科雑草3～5葉期								
NP-65乳 トフラジール 3.6% [日本曹達]	とうもろこし (飼料用)	実・継	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3～5葉期、雑草3～5葉期	100～150mL ＜水量100～150L＞	全土壌	全域		・問題雑草への効果の確認	
	とうもろこし (食用)	実・継	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3～5葉期、雑草3～5葉期	100mL ＜水量100～150L＞	全土壌	全域		・年次変動の確認 (北海道)	

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	使用標準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
SL-122顆粒水和 フルアジホップ 7% リニロン 30% [石原産業]	大豆	実・ 雑	一年生雑 草	茎葉兼 土壌 (畦間・ 株間)	大豆生育期(本 葉5葉期以降)、 雑草生育期(草 丈15cm以下)	170～ 330g <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	東北以南	・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る	・播種後出芽前処理 での効果、葉害の確 認 ・畦間・株間処理での 効果、葉害の確認(北 海道) ・170g処理での年次 変動の確認 ・大豆5葉期以前の 処理での葉害の確認
SL-236(L)乳 フルアジホップ P 17.5% [石原産業]	てんさい	実・ 雑	一年生イ ネ科雑草 (スズメノカ タビラを除く)	茎葉	てんさい生育 期、 イネ科雑草3～5 葉期	75～ 100mL <水量25 ～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理：広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・イネ科雑草6～8葉期 処理での効果、葉害 の確認(北海道)
SL-950フロアブル ニコスルホン 4% [石原産業]	とうもろこし (飼料用)	実	一年生雑 草、多年生 イネ科雑草	茎葉	トモロコシ3～5葉 期、 雑草2～4葉期	100～ 150mL<水 量25～ 100L>	全土壌	全域	・殺虫剤との近接散布はさけ る ・処理後葉が変色(黄白化、紫 褐色など)することがある ・イヌホオズキ類には効果が劣る ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	
SYJ-100乳 プロホルカルブ 78.4% [シンジェンタ ジャパ ン]	春播小麦	雑								・効果、葉害の確認 (北海道)
UPH-002フロアブル フェンメチアム 16% [保土谷UPL]	てんさい (直播)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい2葉期 以降、 雑草発生揃期	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合 がある	
	てんさい (移植)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい定植活 着後、 雑草発生揃期 中耕後、 雑草発生揃期	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合 がある	
WOC-01液 グリホサートイソプロピ ルアミン塩 41.0% [三井化学アグロ]	大豆	雑								・効果、葉害の確認
YF-65L液 ジクワット 7.0% ハラコート 5.0% [シンジェンタ ジャパ ン]	大豆	雑								・効果、葉害の確認
ZK-122液 グリホサートカリウム塩 44.7% [シンジェンタ ジャパ ン]	大豆	実・ 雑	コウキヤガラ 一年生雑 草	茎葉	耕起または播種 7日以前 雑草 生育期(草丈 30cm以下) 播種後出芽前 雑草生育期(草 丈30cm以下) 茎葉 (畦間)	250～ 500mL <水量25 ～50L> 250～ 500mL <水量25 ～100L> 250～ 500mL <水量25 ～100L>	全土壌	東北以南	・専用ノズルを使用する ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する ・大豆の発芽開始後は、薬剤 が直接触れると葉害が発生 することがあるので注意する。 ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する。 ・作物に飛散しないように散 布する ・専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使 用する	・問題雑草への効果 の確認(雑草茎葉塗 布処理)
			一年生広 葉雑草	茎葉 (雑草 塗布)	大豆着莢期以 降、 雑草生育期	2倍希釈 液 (0.1mLを1 ～3ヶ所/ 株)			・専用塗布処理器を使用する ・作物に付着しないように塗 布する ・分枝の多い雑草には2ヶ所 以上塗布する	

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
アラコール乳 アラコール 43% [日産化学]	てんさい (直播)	—								(作用性)
	てんさい (移植)	実・ 継 (従来どおり)	一年生雑 草	土壌	てんさい定植 後、 雑草発生前	300～ 400mL ＜水量 100L＞	全土壌(砂 土を除く)	北海道		・中耕培土後処理で の効果、葉害の確認
トリフルリン乳 トリフルリン 44.5% [ダウ・ケミカル日本]	大豆	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～ 300mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、 アブラナ科には効果が劣る	・中耕培土後の、畦 間・株間処理での効 果、葉害の確認 ・播種後出芽前処理 について北海道での 年次変動の確認
				土壌 (畦間)	中耕培土後 雑 草発生前					
	かんしょ	実・ 継	一年生雑 草	土壌 (畦間 全面)	かんしょ挿苗後、 雑草発生前	200～ 300mL ＜水量 100L＞	全土壌(砂 土を除く)	全域	・ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、 アブラナ科には効果が劣る	・効果、葉害につい て年次変動の確認
				土壌 (畦間)	中耕培土後 雑 草発生前					
トリフルリン粒 トリフルリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	かんしょ	実	一年生雑 草	土壌 (畦間 全面)	かんしょ挿苗後、 雑草発生前	3～4kg	全土壌(砂 土を除く)	全域	・ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、 アブラナ科には効果が劣る ・畝肩のり面では効果が劣る 場合がある	
プロピザミド水和 プロピザミド 50% [ダウ・ケミカル日本]	イチゴ(根株)	実・ 継	一年生雑 草	土壌	イチゴ定植後、 雑草発生前	300g ＜水量 100L＞	全土壌(砂 土を除く)	全域	・キク科、カヤツリグサ科には効果 が劣る	・中耕後処理での年 次変動の確認 ・効果、葉害の確認 (東北以南)
					中耕後、 雑草発生前					
レグロック液 ジクワット 31.8% [シンジェンタ ジャパ ン]	大豆	継								・畦間・株間処理での 効果、葉害の確認(東 北以南) ・収穫前全面処理で の効果、葉害の確認 (東北以南) ・収穫前全面処理で の子実品質への影響 の確認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含 有率(%)	作物名	判 定	使用規準						継続の内容	
			対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
BAW-0907液 クロルメコト 75%(w/v) [BASFジャパン]	春播小麦	—							(作用性)	
KUH-833F(M)プロ アフル プロヘキサジオンカルシ ウム塩 5.0% [クマイ化学工業]	春播小麦	実・ 継	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂始期	150mL<水 量100L>	全土壌	北海道	・止葉期とは止葉が確認でき た日を目安とする	・100mL処理での効 果の確認
AKD-8182顆粒 水和 マレイン酸ヒドラントカ リウム塩 80% [アグロカネシヤウ]	ばれいしょ	継								・効果、葉害の確認
F-8426EO カルフェントラゾンエチル 6.4% [石原産業]	ばれいしょ	実・ 継 (従来ど おり)	茎葉枯凋 促進効果	茎葉	開花開始30日 以降(茎葉繁茂 期) (2回処理) 茎葉黄変始期 ～黄変期	200mL→ 150～ 200mL <水量 100L> 150～ 300mL <水量25 ～100L>	全土壌	北海道 全域		・茎葉繁茂期処理で の効果、葉害の確認 (東北以南) ・茎葉黄変期処理の 低薬量、少水量散布 での効果、葉害の確 認(東北以南)
JC-1201091液 3-decene-2-one 98% [アンバック ケミカル]	ばれいしょ	—								(作用性)

平成22年度 春夏作芝関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績
検討会は、平成22年11月16日(火)にメルパルク大阪に
おいて開催された。

この検討会には、試験場関係者13名、委託関係者50
名ほか、計74名の参集を得て、除草剤34薬剤(235点)、

生育調節剤5薬剤(44点)について、試験成績の報告と検
討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表
に示す通りである。

平成22年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注)アグライは新たに判定された部分

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ＜試験中など (敬)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
1. AEH-002 顆粒水和 ヨード・スルホンアミドナトリウム 塩:10.0% 〔ハ・イ・エ・ロ・フ・サ・イ・エ・ス〕	コライシ バ	適用性 継続	グランド・イ・那須GC 太平洋C美野里C J埼玉 真名CC 関西G研 門司GC	ねらい 多年生広葉雑草への拡大 対象 雑草 一年生(科) 一 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 シロツメクサ・オオバコ・カタバミ・タンポポ等 その他 設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.015g <200~300mL> <水量> 0.02g <200~300mL> <水量> 0.025g <200~300mL> /㎡ 対) イゾア-RDF 雑草発生初期 0.03g <200~300mL>	実・ 継	実) [春夏作;(コライシバ、ジシバ)一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.01~0.02g<200~300mL>/㎡ ・土壌処理 ・芝生育期、雑草発生初期 ・0.01~0.015g<200~300mL>/㎡ ・茎葉兼土壌処理 [春夏作;(コライシバ、ジシバ)多年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・0.015~0.025g<200~300mL>/㎡ ・茎葉兼土壌処理
	ジシバ	適用性 継続	グランド・イ・那須GC 太平洋C美野里C J埼玉 真名CC 関西G研 門司GC	ねらい 多年生広葉雑草への拡大 対象 雑草 一年生(科) 一 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 シロツメクサ・オオバコ・カタバミ・タンポポ等 その他 設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.015g <200~300mL> <水量> 0.02g <200~300mL> <水量> 0.025g <200~300mL> /㎡ 対) イゾア-RDF 雑草発生初期 0.03g <200~300mL>	継	・0.025gでの年次変動の確認(コライシバ、ジシバ) ・0.01gでの一年生広葉雑草に対する効果の確認 (コライシバ、ジシバ) ・倍量薬害試験での確認(コライシバ、ジシバ) ・運用試験での確認(コライシバ、ジシバ) ・実証試験での確認(コライシバ、ジシバ) ・萌芽期薬害の確認(コライシバ、ジシバ) ・高温期薬害の確認(コライシバ、ジシバ) ・緑化木への影響の確認
2. AKD-7175 粒 DBN:1.2% ジナジン:3% 〔ア・カ・サ・シ・ヨ〕	ジシバ	適用性 継続	J埼玉 静岡G場協会 門司GC	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 全般 その他 設計 土壌処理 芝生育期(雑草発生前) 薬量 8g, 10g, 12g (水量) 対) 一任 /㎡	実・ 継	実) [春夏作;(ジシバ)一年生雑草、多年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・8~12g/㎡ ・土壌処理 継) ・ヤブツバに対する効果の確認(ジシバ) ・倍量薬害試験での確認(ジシバ) ・萌芽期薬害の確認(ジシバ) ・高温期薬害の確認(ジシバ) ・緑化木への影響の確認
	ジシバ	適用性 継続	J埼玉 静岡G場協会 門司GC	ねらい 雑草発生初期 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 全般 その他 設計 土壌処理 芝生育期(雑草発生初期) 薬量 8g, 10g, 12g (水量) 対) 一任 /㎡		

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
3. BAH-0902 マイクロバ セル ベンチレート:38.7% 〔BASFジャパン〕	コウライシ バ	適用性 継続	太平洋C美野里C J埼玉 新中国G研 門司GC (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生休耕 全般 雑草 一年生広葉 全般(雑科を除く) 多年生休耕 — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.5ml <200-300ml> /㎡ 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クワロックス水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>	実・ 継	実) [春夏作: (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) 一年生雑草(雑科を除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.5～0.7mL<200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 (継) ・ 効果、薬害の確認 (クワロキープ ルーグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・ 連用試験での確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・ 緑化木への影響の確認
	シバ	適用性 継続	太平洋C美野里C J埼玉 新中国G研 門司GC (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生休耕 全般 雑草 一年生広葉 全般(雑科を除く) 多年生休耕 — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.5ml <200-300ml> /㎡ 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クワロックス水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>		
	クワロキープ ルーグ ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対 象 一年生休耕 全般 雑草 一年生広葉 全般 多年生休耕 — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡ 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 対) クワロックス水和 芝生育期 雑草発生前 0.1g <200-300ml>		
	クワロキープ ルーグ ラス	適用性 新規	札幌国際CC 泉バーナークGC 埼玉スチール2002 (3)	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生休耕 全般 雑草 一年生広葉 全般(雑科を除く) 多年生休耕 — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡ 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 対) クワロックス水和 芝生育期 雑草発生前 0.1g <200-300ml>		
	バーミュー ダグラス	適用性 継続	埼玉スチール2002 浜松シーテックGC 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生休耕 全般 雑草 一年生広葉 全般(雑科を除く) 多年生休耕 — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.5ml <200-300ml> /㎡ 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クワロックス水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>		
4. BAH-1004 液 既知化合物:48% (w/v) 〔BASFジャパン〕	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対 象 一年生休耕 — 雑草 一年生広葉 全般 多年生休耕 — 多年生広葉 — その他 ヒメジョオン 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.5ml <100-200ml> /㎡ 0.75ml <100-200ml> 1.0ml <100-200ml> 対) 慣行	継 (継)	・ 効果、薬害の確認 (コウライシバ、シバ)

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・継 の別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判定	判定内容
4. BAH-1004 液 つづき ハ	コウライシ ハ	適用性 新規	太平洋C美野里C 浜松シサイトGC 関西G研 (3)	ねらい 雑草生育期茎葉処理 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般(マノ科を除く) 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
				ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
	シハ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
				ねらい 雑草生育期茎葉処理 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般(マノ科を除く) 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 J埼玉 関西G研 (3)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
				ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
5. BAH-1005 粒 既知化合物A:0.75% 既知化合物B:1% [BASFジャパン]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡	継 継) ・効果、薬害の確認 (コウライシハ、シハ)	
				ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
	シハ	作用性 新規	東日本G研 関西G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
				ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
	コウライシ ハ	適用性 新規	太平洋C美野里C 浜松シサイトGC (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
				ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
	シハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
				ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 ヒメギク 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・雑 の 別	試験担当場所 ＜は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
6. BS-2 粒 ベンディメタリン:1.1% N:P:K=10:5:5 複 合 肥料 [エス・ティ・エス バイオテック]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前、年次変動の確認 対 象 一年生雑草 一年生広葉 全般 (雑科を除く) 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 20g, 30g, 40g (水量) 対) テマナックス 芝生育期 雑草発生前 30g /㎡	実・ 雑	実) [春夏作: (コウライシバ、) 一年生雑草 (雑科を除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 雑) ・ 連用試験での確認 (コウライシバ) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ) ・ 萌芽期被害の確認 (コウライシバ) ・ 緑化木への影響の確認
7. DAH-0808 EW ジチオビル: 24% [ダウ・ケミカル 日本]	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 西日本G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>	実・ 雑	実) [春夏作: (コウライシバ、) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1～0.2ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作: (コウライシバ、) 一年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.2～0.3ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作: (コウライシバ、) ハズソウ] ・ 芝生育期、雑草発生初期 ・ 0.2～0.3ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作: (カンタキープ ルーグラス) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1～0.2ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 注) ・ 高温期の使用では葉の濃緑化などがみられる事がある (カンタキープ ルーグラス) ・ 萌芽期での使用では葉先が白化する事がある (カンタキープ ルーグラス) 雑) ・ メヒシバ 発生初期処理での効果、薬害の確認 (コウライシバ、) 雑草 ・ ハズソウ 発生初期処理での効果について年次変動の確認 (コウライシバ、) 雑草 ・ 連用試験での確認 (コウライシバ、) 雑草、カンタキープ ルーグラス ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、) 雑草、カンタキープ ルーグラス ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 新中國G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>		
	シバ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 西日本G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>		
	シバ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 新中國G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>		
8. GG-155 顆粒水和 イザラズ:75% [日本ケミカル・インターナショナル] デジ	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中國G研 (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生雑草 一年生広葉 全般 多年生雑草 一 多年生広葉 全般 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 0.1g <200-300ml> (水量) 0.15g <200-300ml> /㎡ 0.2g <200-300ml> 対) イブ・エーDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>	実・ 雑	実) [春夏作: (コウライシバ、) 一年生広葉雑草、多年生広 葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 0.1～0.2g <200～300mL>/㎡ ・ 茎葉兼土壌処理 雑) ・ 連用試験での確認 (コウライシバ、) 雑草 ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、) 雑草 ・ 萌芽期被害の確認 (コウライシバ、) 雑草 ・ 緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注) ア/ダ/ラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 続	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
8. GG-155 顆粒水和 つづき	コウライソ ハ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (5)	ねらい 雑草発生初期		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 全般		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.1g <200-300ml> /㎡ 0.15g <200-300ml> 0.2g <200-300ml> 対) シバ/イト40SC 芝生育期 雑草発生初期 0.1ml <200-300ml>		
	ソシハ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 (4)	ねらい 雑草発生前		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 全般		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.1g <200-300ml> /㎡ 0.15g <200-300ml> 0.2g <200-300ml> 対) イソバ-ルDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>		
	ソシハ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (5)	ねらい 雑草発生初期		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 全般		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.1g <200-300ml> /㎡ 0.15g <200-300ml> 0.2g <200-300ml> 対) シバ/イト40SC 芝生育期 雑草発生初期 0.1ml <200-300ml>		
9. GG-181 粒 シバ/イト:1.0% DRN:0.5% N:P:K:Mg=12:8:7:3 [日本ケミカル・アグロ デコ]	コウライソ ハ	信量薬 害 新規	東日本G研 静岡G場協会 (2)	ねらい 高温期処理での薬害確認	実・ 実) ・ [春夏作; (コウライソ)一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 芝生育期、雑草発生前〜初期 ・ 20〜40g/㎡ ・ 土壌処理 雑) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライソ) ・ 信量薬害試験での確認 (コウライソ) ・ 連用試験での確認 (コウライソ) ・ 実証試験での確認 (コウライソ) ・ 緑化木への影響の確認	
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 一		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 薬量 (水量) 0.2g <200ml> /㎡ 0.4g <400ml> 0.8g <800ml>		
	ソシハ	信量薬 害 新規	東日本G研 静岡G場協会 (2)	ねらい 高温期処理での薬害確認		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 一		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 薬量 (水量) 0.2g <200ml> /㎡ 0.4g <400ml> 0.8g <800ml>		
	コウライソ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (多年生広葉)		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 20g, 30g, 40g /㎡ 対) ベンバ-ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g		
	コウライソ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (スギナ)		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 一		
				その他 スギナ		
				設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 20g, 30g, 40g /㎡ 対) ベンバ-ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g		

A. 除草剤

注) アグーライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当所 は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
10. GG-182 粒 シタジソン:1.0% メコフ・ロップ・Pカリウム 塩:1.0% 〔日本カリーアント・カー テン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研	(3) ねらい 雑草発生初期(多年生広葉) 対 象 一年生付科 ― 雑草 一年生広葉 ― 多年生付科 ― 多年生広葉 全般 その他 ― 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 20g, 30g, 40g (水量) 対) ベンボール粒剤 /㎡ 芝生育期 雑草発生初期 15g	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 注) ・ 高温期での処理はコウライシハに葉害を生じることがある 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研	(3) ねらい 雑草発生初期(スギナ) 対 象 一年生付科 ― 雑草 一年生広葉 ― 多年生付科 ― 多年生広葉 ― その他 スギナ 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 20g, 30g, 40g (水量) 対) ベンボール粒剤 /㎡ 芝生育期 雑草発生初期 15g	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
11. GG-191 粒 トリアツフラム:0.1% DBN:0.5% N:P:K:Mg=12:8:7:3 〔日本カリーアント・カー テン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研	(3) ねらい 雑草発生初期(多年生広葉) 対 象 一年生付科 ― 雑草 一年生広葉 ― 多年生付科 ― 多年生広葉 全般 その他 ― 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 20g, 30g, 40g (水量) 対) ベンボール粒剤 /㎡ 芝生育期 雑草発生初期 15g	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研	(3) ねらい 雑草発生初期(スギナ) 対 象 一年生付科 ― 雑草 一年生広葉 ― 多年生付科 ― 多年生広葉 ― その他 スギナ 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 20g, 30g, 40g (水量) 対) ベンボール粒剤 /㎡ 芝生育期 雑草発生初期 15g	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
12. HPW-103 フロアフル オキサリシン:15% 〔保土谷UPL〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研	(3) ねらい 雑草発生前、0.5mL/㎡への拡大 対 象 一年生付科 全般 雑草 一年生広葉 全般(ヤブ科、マノ科を除く) 多年生付科 ― 多年生広葉 ― その他 ― 設計 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 薬量 0.5mL <200mL> (水量) 0.6mL <200mL> /㎡ 0.8mL <200mL> 比) 4-フランドF 芝生育期、雑草発生前処理 0.1g <200mL>	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ、ノハハ) 一年生雑草(ヤブ科を除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.5～0.8mL<200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 0.5mLでの年次変動の確認 (コウライシハ、ノハハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ、ノハハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ、ノハハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ、ノハハ) ・ 緑化木への影響の確認
	ノハハ	適用性 継続	東日本G研 ヤンヒウスCC 新中国G研	(3) ねらい 雑草発生前、0.5mL/㎡への拡大 対 象 一年生付科 全般 雑草 一年生広葉 全般(ヤブ科、マノ科を除く) 多年生付科 ― 多年生広葉 ― その他 ― 設計 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 薬量 0.5mL <200mL> (水量) 0.6mL <200mL> /㎡ 0.8mL <200mL> 比) 4-フランドF 芝生育期、雑草発生前処理 0.1g <200mL>	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草] ・ 芝生育期雑草生育期(草丈10cm以下) ・ 100～150mL/㎡(希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉が黄化することがある 継) ・ 倍量薬害での確認(コウライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
13. HPW-104 液 7-ジラド:0.2% 〔保土谷UPL〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研	(3) ねらい 雑草生育期(草丈10cm以内) 対 象 一年生付科 全般 雑草 一年生広葉 全般 多年生付科 ― 多年生広葉 ― その他 ― 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期(草丈10cm以内) (水量) 75mL (希釈せずそのまま散布) /㎡ 100mL (希釈せずそのまま散布) 150mL (希釈せずそのまま散布) 比) 7-ジラド液剤 芝生育期、雑草生育期 (草丈10cm以内) 0.6mL <200mL>	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草] ・ 芝生育期雑草生育期(草丈10cm以下) ・ 100～150mL/㎡(希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉が黄化することがある 継) ・ 倍量薬害での確認(コウライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認

注)アンダーラインは新たに判定された部分

— 33 —

A. 除草剤

注)アザラビは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 又は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	判定	判定内容
17. KUH-079 顆粒水和 ビリスルファン:50.0%	カンタッキー ブルーグラス	適用性 継続	札幌国際CC 泉パナソニックGC グランドイ那須GC 静岡G場協会	ねらい 対象 雑草 (4) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.03g <100-200ml> 0.04g <100-200ml> 0.06g <100-200ml> 対) プルート・スマッシュSC 雑草発生初期(シハ)生育期) 0.03ml <100-200ml>	実・ 継	実) [春夏作;(コライシハ)一年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.03~0.04g <水量100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 [春夏作;(カンタッキーブルーグラス)一年生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.04~0.06g <水量100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 0.02gでの効果の確認(コライシハ) ・ 多年生広葉雑草への効果の確認(コライシハ) ・ 薬害の発生要因について(カンタッキーブルーグラス) ・ 0.03gでの効果の確認(カンタッキーブルーグラス) ・ 倍量薬害での確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 連用試験での確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 実証試験での確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 萌芽期薬害の確認(コライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 緑化木への影響の確認
18. LNS-001 顆粒水和 フルベリスルファン:50%	コライシハ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 対象 雑草 (3) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.03g <200-300ml> 0.045g <200-300ml> 0.06g <200-300ml> 対) アザラビ 芝生育期 雑草発生初期 0.3g <150-300ml>	実・ 継	実) [春夏作;(コライシハ、ジシハ)一年生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生初期(3葉期まで) ・ 0.03~0.06g<100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ ヒメカゲに対する効果の確認(コライシハ) ・ ハスガに対する効果の確認(コライシハ) ・ 効果・薬害の確認(アザラビ) ・ 倍量薬害試験での確認(コライシハ、ジシハ) ・ 実証試験での確認(コライシハ、ジシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 静岡G場協会 新中国G研	ねらい 対象 雑草 (3) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.03g <200-300ml> 0.045g <200-300ml> 0.06g <200-300ml> 対) アザラビ 芝生育期 雑草発生初期 0.3g <150-300ml>		
19. MAC-1 フロアブル タミロン:45.0%(W/W)	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研	ねらい 対象 雑草 (4) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 1.0ml <200-300ml> 1.5ml <200-300ml> 2.0ml <200-300ml> 対) エゲン水和剤 ジシハ発生前 1.0g <250ml>	実・ 継 (従 来 ど お り)	実) [春夏作;(ベントグラス、カンタッキーブルーグラス)スズメノカタビラ] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 1~2ml<200~300ml>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ ジシハに対する効果・薬害の確認(ベントグラス)
20. MAH-0802 フロアブル ベントグイナリン:35%	コライシハ	適用性 継続	J埼玉 新中国G研 かごしま空港CC	ねらい 対象 雑草 (3) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.5ml <200ml> 0.65ml <200ml> 0.8ml <200ml> 比) 慣行 芝生育期、雑草発生前	実・ 継	実) [春夏作;(コライシハ)一年生雑草(雑科を除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.5~0.8mL<200mL>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 効果・薬害の確認(ジシハ) ・ 散布水量300mLでの効果・薬害の確認(コライシハ、ジシハ) ・ 倍量薬害での確認(コライシハ) ・ 連用試験での確認(コライシハ) ・ 実証試験での確認(コライシハ) ・ 萌芽期薬害の確認(コライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コライシハ) ・ 緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注) アダグ・ラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
20. MAH-0802 フォアフル つづき	ソシバ	作用性 新規	新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生(イ科) 全般 雑草 一年生広葉 全般(イ科を除く) 多年生(イ科) -- 多年生広葉 -- その他 -- 設計 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 薬量 <水量> 0.35ml <200ml> <水> 0.5ml <200ml> <水> 0.65ml <200ml> <水> 0.8ml <200ml> /㎡ 比) 慣行 芝生育期、雑草発生前		
	ソシバ	適用性 新規	J埼玉 新中国G研 かごしま空港CC	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生(イ科) 全般 雑草 一年生広葉 全般(イ科を除く) 多年生(イ科) -- 多年生広葉 -- その他 -- 設計 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 薬量 <水量> 0.5ml <200ml> <水> 0.65ml <200ml> <水> 0.8ml <200ml> /㎡ 比) 慣行 芝生育期、雑草発生前		
21. MBH-021 液 アミジクロピラクトール :21.2% [丸和パイヤシムル]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 植調研 新中国G研	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生(イ科) -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生(イ科) -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 <水量> 0.015ml <200ml> <水> 0.02ml <200ml> <水> 0.03ml <200ml> /㎡ 対) MCPP液剤 雑草生育期 0.5ml <200ml>	実・ 継	実) [春夏作:(コライシバ)一年生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 0.015~0.03mL<200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 倍量薬害での確認(コライシバ) ・ 連用試験での確認(コライシバ) ・ 実証試験での確認(コライシバ) ・ 萌芽期薬害の確認(コライシバ) ・ 高温期薬害の確認(コライシバ) ・ 緑化木への影響の確認
22. MBH-022 液 新規化合物A:3% 既知化合物B:42% [丸和パイヤシムル]	ケンタッキー ブルーグラス	作用性 新規	泉パ・ナカノGC 埼玉スタジアム2002	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生(イ科) -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生(イ科) -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 <水量> 0.05, 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> /㎡ 対) プラスコンM 0.6ml <200ml>	継	効果、薬害の確認 (ケンタッキーブルーグラス、ライグラス)
	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 新規	札幌国際CC	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生(イ科) -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生(イ科) -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 <水量> 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> /㎡ 対) プラスコンM 0.6ml <200ml>		
	ライグラス	作用性 新規	泉パ・ナカノGC 新中国G研	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生(イ科) -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生(イ科) -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 <水量> 0.05, 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> /㎡ 対) プラスコンM 0.6ml <200ml>		
	ライグラス	適用性 新規	札幌国際CC	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生(イ科) -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生(イ科) -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 <水量> 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> /㎡ 対) プラスコンM 0.6ml <200ml>		

A. 除草剤

注) アナグ-ライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ＜＞は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
23. NHK-061 フォアフル ビフルグロシナル:2.0% [日本農薬]	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい 雑草生育期(一年生イネ科) (2) 対象雑草 一年生イネ科 アキメシバ、ヒシバ、スズメノカタビラを含む 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期(分げつ前まで) 薬量 1回処理: 0.4mL <100-200mL> <水量> 0.6mL <100-200mL> /㎡ 反復処理: 0.4mL→0.4mL <100-200mL>	実・ 継	実) [春夏作; (ヘントグラス)ヒシバ、多年生広葉雑草] 単用処理: ・ 芝生育期, 雑草生育期(分げつ前まで) ・ 0.4~0.6mL<100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 反復処理(2回); ・ 芝生育期, 雑草生育期(分げつ前まで) ・ 0.4mL<100~200mL>/㎡ (散布間隔は2週間を目安とする) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉に褐変を生じることがある 継) ・ 倍量薬害での確認(ヘントグラス) ・ 連用試験での確認(ヘントグラス) ・ 実証試験での確認(ヘントグラス) ・ 高温期薬害の確認(ヘントグラス)
	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい 雑草生育期(多年生広葉) (2) 対象雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ナメタチ、チコチチ類を含む雑草全般 その他 ー 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 1回処理: 0.4mL <100-200mL> <水量> 0.6mL <100-200mL> /㎡ 反復処理: 0.4mL→0.4mL <100-200mL>		
24. NP-64 フォアフル ベントキザン:20% [日本曹達]	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい 雑草生育期(キノコク) (2) 対象雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 キノコク 設計 茎葉処理 芝生育期、キノコク生育期 薬量 0.3mL <100-200mL> <水量> 0.5mL <100-200mL> /㎡ 対) クスDF 0.045g <100-200mL>	実・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス)コナギ] ・ 芝生育期、コナギ生育期 ・ 0.5mL <100-200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 0.3mLでの効果、薬害の確認(ベントグラス) ・ 倍量薬害での確認(ベントグラス) ・ 連用試験での確認(ベントグラス) ・ 実証試験での確認(ベントグラス) ・ 高温期薬害の確認(ベントグラス)
	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい キノコク、体系処理での残効確認 (2) 対象雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 キノコク 設計 茎葉処理 芝生育期、キノコク生育期 薬量 0.75mL→0.3mL <100-200mL> <水量> 1mL→0.5mL <100-200mL> /㎡ 参) キレグ→クス 2g→0.045g <200mL>		
25. NR-16 水和 既知化合物A:18.8% 既知化合物B:50.0% [日本曹達]	ヘントグ ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研	ねらい 藻類発生初期 (2) 対象雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 藻類 設計 茎葉散布 芝生育期 藻類発生初期 薬量 0.25g <500mL> <水量> 0.5g <500mL> /㎡ 1g <500mL> 対) 一任	継	継) ・ 効果、薬害の確認(ベントグラス)
	ヘントグ ラス	適用性 新規	関西G研 新中国G研	ねらい 藻類発生初期 (2) 対象雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 藻類 設計 茎葉散布 芝生育期 藻類発生初期 薬量 0.5g <500mL> <水量> 1g <500mL> /㎡ 対) 一任		

A. 除草剤

注) アグライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
26. SB-201 乳 剤タイプ:25% [エス・ディー・エス ハイテック]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 関西G研 新中國G研 (4)	ねらい 雑草発生前(ヒシハ) 対 象 一年生作物 ヒシハ 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 薬量 0.2ml <200-300ml> <水量> 0.3ml <200-300ml> /㎡ 0.4ml <200-300ml> 対) テンバザン 芝生 雑草発生前 1.5g <200-300ml>	実・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス) ヒシハ] ・芝生 雑草発生前 ・0.3~0.4ml <200-300ml>/㎡ ・土壌処理 継) ・回復処理での効果、薬害の確認(ベントグラス) ・連用試験での確認(ベントグラス) ・実証試験での確認(ベントグラス) ・高温期薬害の確認(ベントグラス)
27. SB-325 フォアフル ネトライト(TPN) :53.0% [エス・ディー・エス ハイテック]	ベントグ ラス	倍量薬 害 新規	東日本G研 新中國G研 (2)	ねらい 芝生 倍量薬害 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 薬量 0.4ml <200ml> <水量> 0.8ml <400ml> /㎡ 1.6ml <800ml>	実・ 継 (従 来 ど お り)	実) [(コウライハ、ベントグラス) 雑類] ・芝生 雑草発生前 ・1~1.54ml <1000ml>/㎡ ・土壌処理 ・回復処理の場合は20日間隔 継) ・雑草発生前処理での効果、薬害の確認(ベントグラス)
28. SB-3651 顆粒水 和 剤タイプ(TPN) :50.0% サラム(TMTD):30.0% [エス・ディー・エス ハイテック]	コウライ ハ	適用性 新規	太平洋C美野里C 新中國G研 (2)	ねらい 雑草発生前、回復処理(3回) 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 雑類 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 (3回) 薬量 2.0g <500ml> <水量> 対) テンバザン 芝生 雑草発生前 /㎡ 1ml <1000ml>	実・ 継	実) [(ベントグラス) 雑類] ・芝生 雑草発生前 ・2g <500ml>/㎡ 2~3回 (散布間隔は2週間を目安とする) ・土壌処理 継) ・効果、薬害の確認(コウライハ) ・3回処理での年次変動の確認(ベントグラス) ・実証試験での確認(ベントグラス)
	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中國G研 (3)	ねらい 雑草発生前、回復処理(3回) 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 雑類 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 (3回) 薬量 2.0g <500ml> <水量> 対) テンバザン 芝生 雑草発生前 /㎡ 1ml <1000ml>		
	ベントグ ラス	倍量薬 害 新規	東日本G研 関西G研 (2)	ねらい 高温期薬害、回復処理(3回) 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 雑類 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 (3回) 薬量 2.0g <500ml> <水量> 4.0g <1000ml> /㎡ 8.0g <2000ml>		

A. 除草剤

(注)アグライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 の試験中など (敬)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
29. SYJ-111 乳 S-メトクロール:83.7% 〔シンジエンタ ジャパン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	新中国G研	ねらい 雑草発生前、年次変動の確認 (1) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.25ml <200-300ml> 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> /㎡ 対) デュアル乳剤 雑草発生前、芝生育期 0.7ml <200-300ml>	実 ・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ、ノシハ) 一年生雑草〕 ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.25~0.4ml<200-300ml>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (ハーマーグダラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ハーマーグダラス) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ハーマーグダラス) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ハーマーグダラス) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシハ、ノシハ、ハーマーグダラス) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシハ、ノシハ、ハーマーグダラス) ・ 緑化木への影響の確認
	ノシハ	適用性 継続	新中国G研	ねらい 雑草発生前 (1) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.25ml <200-300ml> 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> /㎡ 対) デュアル乳剤 雑草発生前、芝生育期 0.7ml <200-300ml>		
	コウライシ ハ	連用薬 害 継続	新中国G研 西日本G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 (2) 対 象 雑草 一年生付科 ー 一年生広葉 ー 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡		
	ノシハ	連用薬 害 継続	新中国G研 西日本G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 (2) 対 象 雑草 一年生付科 ー 一年生広葉 ー 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡		
30. SYJ-192 フロアアル トリフロキシスルフオンナトリウム 塩:10% 〔シンジエンタ ジャパン〕	ハーマー グダラス	連用薬 害 継続	浜松シーチ付 GC 新中国G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 (2) 対 象 雑草 一年生付科 ー 一年生広葉 ー 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡	実 ・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草〕 ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.025~0.05ml<100-200ml>/㎡ ・ 茎葉兼土壌処理 継) ・ 年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシハ) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 J埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前初期 (6) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 薬量 0.02ml <100-200ml> (水量) 0.025ml <100-200ml> 0.045ml <100-200ml> /㎡ 0.05ml <100-200ml> 対) モノノット顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250ml>		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 J埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前初期 (6) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 薬量 0.02ml <100-200ml> (水量) 0.025ml <100-200ml> 0.045ml <100-200ml> /㎡ 0.05ml <100-200ml> 対) モノノット顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250ml>		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 J埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前初期 (6) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 薬量 0.02ml <100-200ml> (水量) 0.025ml <100-200ml> 0.045ml <100-200ml> /㎡ 0.05ml <100-200ml> 対) モノノット顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250ml>		

A. 除草剤

注)アゾグーラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・雑 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
31. SYJ-194 フロアクト アミドミン:40.7% [シンジエンタ シンヤパン]	クナタキ アミドミン ラス	連用薬 査 継続	ダラシイ那須GC 新中国G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 対 象 雑 草 (2) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 雑草発生前、芝生育期 0.26ml <200-300ml>	実 ・ 雑	実) [春夏作; (コウライシバ、ノシバ、ハニシバ) 一年生雑草 (雑草除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.125~0.25mL<200-300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作; (ベントグーライン) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1~0.26mL<200-300mL>/㎡ ・ 土壌処理 注) ・ ベントグーラインでは黄化などの薬害を生じることがある [春夏作; (クナタキアミドミン) 一年生雑草(雑草除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1~0.26mL<200-300mL>/㎡ ・ 土壌処理 雑) ・ 年次変動の確認 (ベントグーライン、クナタキアミドミン) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ、ハニシバ) ・ 連用薬害試験での確認 (ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン、ハニシバ) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシバ、ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン、ハニシバ) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシバ、ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン、ハニシバ) ・ 緑化木への影響の確認
32. SYJ-229 液 アミドミン:30.0% MDBA:3.0% 保土台UPL [シンジエンタ シンヤパン 保土台UPL]	コウライシ バ	作用性 新規	植調研 関西G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑 草 (2) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.3, 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>	雑	雑) ・ 効果、薬害の確認 (コウライシバ、ノシバ)
	コウライシ バ	適用性 新規	泉パナソニックGC 東日本G研 シンヒルズCC J埼玉 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑 草 (6) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>		
	ノシバ	作用性 新規	植調研 関西G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑 草 (2) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.3, 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>		
	ノシバ	適用性 新規	泉パナソニックGC 東日本G研 シンヒルズCC J埼玉 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑 草 (6) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>		

A. 除草剤

(注)アウトラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 続 の 別	試験担当場所 <試験中など (致)>	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
33. TH913H4 フロアアル イマゾスルホン:40% 〔日本ケミカル・インターナショナル・コーポレーション〕	コウライシハバ	適用性 継続	泉パナソニックGC 東日本G研	ねらい 雑草発生前 (2) 対 象 雑 草 一年生(科) ー 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 全般 その他 ー 設計 薬量 芝生育期 雑草発生前 <水量> 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> 対) イソプロパノール 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシハバ) 一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.2~0.4ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ)、ノシバ、ベントグラス、ケンタッキーブルーグラス] 一年生 広葉雑草、ヒメタカ ・芝生育期、雑草発生前(3 葉期まで) ・0.1~0.2ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ) 希少な雑草類] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.2ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理
	ノシバ	適用性 継続	泉パナソニックGC 東日本G研	ねらい 雑草発生前 (2) 対 象 雑 草 一年生(科) ー 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 全般 その他 ー 設計 薬量 芝生育期 雑草発生前 <水量> 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> 対) イソプロパノール 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシハバ) 一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.2~0.4ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ)、ノシバ、ベントグラス、ケンタッキーブルーグラス] 一年生 広葉雑草、ヒメタカ ・芝生育期、雑草発生前(3 葉期まで) ・0.1~0.2ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ) 希少な雑草類] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.2ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理
34. YS-034 粒 アミダス:1.0% DCBN:0.50% N:P:K:Mg=16.5:5.5: 6.5:2.0 〔ヤマ産業〕	コウライシハバ	適用性 新規	グランド・リサーチGC J埼玉 静岡G場協会 門司GC	ねらい 雑草発生前(処理時期拡大) (4) 対 象 雑 草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 <水量> 40g, 50g, 60g 対) 一任 /㎡	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシハバ) 一年生(科)雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・40~60g/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ) 一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・40~60g/㎡ ・土壌処理
	ハーマー タグダス	作用性 新規	東日本G研 新中國G研	ねらい 殺草スペクトル、薬害の確認 (2) 対 象 雑 草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 <水量> 20g, 30g, 40g 対) 一任 /㎡	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシハバ) 一年生(科)雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・40~60g/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ) 一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・40~60g/㎡ ・土壌処理
	ハーマー タグダス	適用性 新規	埼玉G研 浜松G研 関西G研	ねらい 雑草発生前 (3) 対 象 雑 草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 <水量> 20g, 30g, 40g 対) 一任 /㎡	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシハバ) 一年生(科)雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・40~60g/㎡ ・土壌処理 [春夏作; (コウライシハバ) 一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・40~60g/㎡ ・土壌処理

B. 生育調節剤

注) アナグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
1. BES-004 液 エチオン:21.0% [h'イェルロップ・サイエンス]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい スズメノカタビラ出穂抑制 設計 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 1.0ml⇒1.0ml⇒1.0ml <100-200ml> <水量> 1.5ml⇒1.5ml⇒1.5ml <100-200ml> /㎡ 対) ベンチグライフ 茎葉処理 3月上旬 0.04ml <100-200ml>	実 ・ 維	実) ・ [ベントグラス、ベンチグライフ・ラス] スズメノカタビラ出穂抑制] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ出穂前から3回処理 ・ 1.0～1.5mL<100～200mL>/㎡ (散布間隔 1ヶ月程度) ・ 茎葉処理 注) ・ 出穂を完全に抑える作用は弱いが、処理を重ねるにつ れ、スズメノカタビラの出穂数が徐々に減少する 維) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス、ベンチグライフ・ラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス、ベンチグライフ・ラス)
		適用性 継続	札幌国際CC 東日本G研 新中国G研 (4)	ねらい スズメノカタビラ出穂抑制 設計 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 1.0ml⇒1.0ml⇒1.0ml <100-200ml> <水量> 1.5ml⇒1.5ml⇒1.5ml <100-200ml> /㎡ 対) ショートキープ 液剤 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 0.1ml <100-200ml>		
	ベンチグ ラス	適用性 新規	東日本G研 植調研 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 生育抑制効果による刈り込み軽減 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.025g <250-300ml> <水量> 0.05g <250-300ml> /㎡ 0.075g <250-300ml>	実 ・ 維	実) ・ [春夏作; (コライハ、ノシハ) 生育抑制効果による刈込軽減] ・ 芝生育初期～盛期 (刈込約1週間前) ・ 0.2～0.4g<250～300mL>/㎡ ・ 茎葉処理 維) ・ 低薬量復次処理での効果、薬害の確認 (コライハ、ノシハ)
		薬害 新規	東日本G研 植調研 (2)	ねらい 低薬量復次回散布での薬害確認 設計 全面土壌処理 芝生育期(複数回) 0.075g×4回 <250ml> <水量> 0.15g×4回 <500ml> /㎡ 0.3g×4回 <1000ml>		
2. NPK-063 水和 フルボ酸リジン:50% [日本農薬]	コライハ ノシハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 生育抑制効果による刈り込み軽減 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.025g <250-300ml> <水量> 0.05g <250-300ml> /㎡ 0.075g <250-300ml>		
		薬害 新規	東日本G研 植調研 (2)	ねらい 低薬量復次回散布での薬害確認 設計 全面土壌処理 芝生育期(複数回) 0.075g×4回 <250ml> <水量> 0.15g×4回 <500ml> /㎡ 0.3g×4回 <1000ml>		
	ベンチグ ラス	適用性 新規	太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 生育抑制効果による刈り込み軽減 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.0125g <250-300ml> <水量> 0.025g <250-300ml> /㎡ 0.05g <250-300ml>	実 ・ 維	実) ・ [春夏作; (ベンチグラス) 生育抑制効果による刈込軽減] ・ 芝生育初期～盛期 (刈込約1週間前) ・ 0.1～0.2g<250～300mL>/㎡ ・ 茎葉処理 維) ・ 低薬量復次処理での効果、薬害の確認(ベンチグラス)
		薬害 新規	太平洋C美野里C 新中国G研 (2)	ねらい 低薬量復次回散布での薬害確認。 設計 全面土壌処理 芝生育期(複数回) 0.05g×8回 <250ml> <水量> 0.1g×8回 <500ml> /㎡ 0.2g×8回 <1000ml>		
3. RGP-101 液 既知化合物:2.0% [理研グループ]	ベンチグ ラス	適用性 新規	札幌国際CC 東日本G研 新中国G研 (4)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.0125g <250-300ml> <水量> 0.025g <250-300ml> /㎡ 0.05g <250-300ml>	維	維) ・ 効果、薬害の確認(ベンチグラス)
		適用性 新規	東日本G研 宇都宮大 理研グループ(自社) (3)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6ml×2回 <100-200ml> <水量> 0.9ml×2回 <100-200ml> /㎡ 1.2ml×2回 <100-200ml> 0.6ml×3回 <100-200ml> <水量> 0.9ml×3回 <100-200ml> /㎡ 1.2ml×3回 <100-200ml>		
	ベンチグ ラス	適用性 新規	東日本G研 宇都宮大 理研グループ(自社) (3)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6ml×2回 <100-200ml> <水量> 0.9ml×2回 <100-200ml> /㎡ 1.2ml×2回 <100-200ml> 0.6ml×3回 <100-200ml> <水量> 0.9ml×3回 <100-200ml> /㎡ 1.2ml×3回 <100-200ml>		
		適用性 新規	東日本G研 宇都宮大 理研グループ(自社) (3)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6ml×2回 <100-200ml> <水量> 0.9ml×2回 <100-200ml> /㎡ 1.2ml×2回 <100-200ml> 0.6ml×3回 <100-200ml> <水量> 0.9ml×3回 <100-200ml> /㎡ 1.2ml×3回 <100-200ml>		

B. 生育調節剤

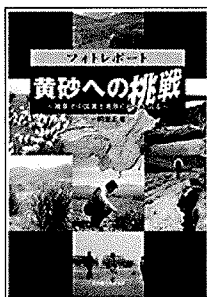
注) アンダーラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
4. RGP-101 液 (A剤との混用) 既知化合物:2.0% 既知化合物A:21% [理研グリーン]	ヘントグ ラス	作用性 新規	植調研 (1)	ねらい スズメノカタビラに対する出穂抑制効果	継 継)	・ 効果、薬害の確認(ヘントグラス)
				設計 茎葉処理 薬量 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 (水量) 本剤 0.3ml+既知A1.0ml <100-200ml> /㎡ 本剤 0.45ml+既知A1.0ml <100-200ml> 本剤 0.6ml+既知A1.0ml <100-200ml>		
	ヘントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 宇都宮大 理研グリーン(自社) (3)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果		
				設計 茎葉処理 薬量 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 (水量) 本剤 0.3ml+既知A1.0ml×2回 <100-200ml> /㎡ 本剤 0.45ml+既知A1.0ml×2回 <100-200ml> 本剤 0.6ml+既知A1.0ml×2回 <100-200ml> 本剤 0.3ml+既知A1.0ml×3回 <100-200ml> 本剤 0.45ml+既知A1.0ml×3回 <100-200ml> 本剤 0.6ml+既知A1.0ml×3回 <100-200ml>		
5. SYJ-111 乳 S-メトラフル:83.7% [シンジエンタシヤパン]	コウライシ ハ	作用性 新規	植調研 西日本G研 (2)	ねらい ヒメタケの生育抑制効果 (発生前/発生初期)	継 継)	・ 効果、薬害の確認(コウライハ)
				設計 土壌散布 薬量 ヒメタケ発生前/発生初期、芝生育期 (水量) 0.25ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> 0.5ml <200-300ml>		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい ヒメタケ密度低減効果		
				設計 1回目:土壌処理 薬量 2回目:茎葉処理 ヒメタケ発生前(1回目)→1回目処 (水量) 理約2ヶ月後(2回目)、芝生育期 /㎡ 0.25ml→0.25ml <200-300ml> 0.3ml→0.3ml <200-300ml> 0.4ml→0.4ml <200-300ml>		

新刊書紹介

黄砂への挑戦

～雑草で中国黄土高原の緑化を図る～



一前宣正／著

発行：全国農村教育協会

「黄砂」は、春の季語とされているように、日本には3～5月頃飛来する。

大昔から見られる現象であるが、ここ10年ほど飛来量が急増し、天気予報でも「黄砂情報」が提供されるなど、注目を集めている。

日本では“空が曇る”，“洗濯物が汚れる”といった程度の影響しかない黄砂だが、このまま放置するとやがて、現在中国大陸で見られているような、深刻な被害…一晩で数ミリもの黄砂が町全体に積もる、健康を害する、航空機が止まる等…をもたらすという。

また、従来、自然現象と認識されてきた黄砂だが、実は人為的原因に拠るところが多いのだそうだ。すなわち、森林伐採や草原開墾、過放牧などにより、砂漠化が進み、黄砂の発生に拍車をかけているという。

黄砂を抑えるすべはないのか？…と暗澹たる思いがするが、本書は、黄砂抑制の可能性を提示する内容であり、読むと希望が湧いてくる。

「黄砂への挑戦」は、黄砂の根本問題を見据え、二十余年も前から日中共同プロジェクトの主要メンバーとして活躍してきた、日本人研究者・一前宣正氏の、写真によるレポートである。

黄砂の発生場所のひとつである「黄土高原」

を、雑草を植えることで「緑化」するのを目的とした日中共同プロジェクト、その研究のプロセス・現地の状況などを、写真でわかりやすく紹介している。

本書によれば、著者らは現地の状況（植生～人々の暮らしまで）をつぶさに調べ、緑化を可能にし、かつ現地の人々を経済的に支えることができる2種の雑草を選抜したとのことである。

著者らが試験した雑草は、実に2万種に及ぶ。その中から、わずか2種を選抜するプロセスは、気の遠くなるような作業であると想像するが、著者はあくまで謙虚に、雑草の持つ力への感謝の思いを述べている。

雑草は有史以前より存在し、人類は資源としての雑草の力を借りることで、文明を発展させてきた、という立場である。著者の、自然への真摯なまなざしは、黄砂抑制への希望を与えてくれるとともに、雑草に象徴される「自然」への、畏敬の念を呼び覚ましてくれる。

本書の構成は、計6章から成っている。序章「黄砂とは？」では、黄砂の基礎知識と著者の参加した共同プロジェクトの概略を紹介。第1章「黄砂の発生状況と砂漠化が進む黄土高原」、第2章「黄土高原の人々の暮らし」、第3章「雑草による緑化と黄砂を抑える試み」では、著者とともに黄土高原を旅するという方法で、研究のプロセスと現地の状況を解説する。著者による民族色豊かな写真も見ごたえがある。第4章「雑草の重要性」、第5章「雑草随想」では、雑草の重要性について、文学の造詣深い文章で考察している。読後、「黄砂への挑戦は、一方で“雑草とはなにか”という問いに対する挑戦であった」という著者の言葉が胸に残った。

●定価 1,953 円（税込）、発行：全国農村教育協会（TEL03-3839-9160、FAX03-3833-1665、メール hon@zennokyo.co.jp）。

「話のたねのテーブル」より

東京初上陸？ イトツメクサ

植村修二

人は関心がないと、いくらそこにあっても
ついつい見逃してしまう。また、先入観も時と
して正しい判断の邪魔をする。今回のイトツ
メクサの事例は、まさにそうであった。

2010年6月、「日本帰化植物写真図鑑第2
巻」の編集会議を終え、共
著者の勝山輝男さんと水田
光雄さんを誘って江東区木
場公園内の帰化植物見本園
で時間をつぶすことにした。

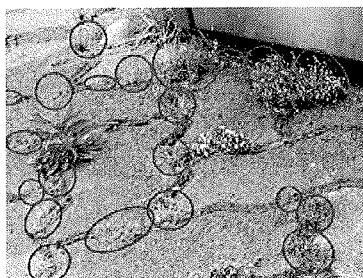
しばらくして、見本園の
入り口付近で通水ブロック
の隙間に生えたイトツメク
サ類植物を見つけ、3人で
しゃがみ込んで撮影に熱
中した。われわれの横では
作業員の方が黙々とこの草
の除去に苦勞していた。こ
の時われわれ3人はこの植
物を“キヌイトツメクサ”
だと思い込んでいた。“キ
ヌイトツメクサ”も“イト
ツメクサ”も *Sagina* 属の
帰化植物である。

このあと、予期せぬことが起きた。撮影を
終え、地下鉄木場駅の階段を下りていた時、
同じ帰化植物仲間である千葉の木村陽子さ
んとバッタリ出会ったのである。聞けばこ

れから見本園に写真を撮りに行くとのこと。
そういうことなら、4人でまた見本園まで戻
ることになった。

入り口まで来て、さっきわれわれの撮影し
たイトツメクサ類をよく見ると、ガク片が4
枚であることがわかった。キ
ヌイトツメクサだと思っていた
ものは、実はイトツメクサ
だったのである。分布の報告
などから、てっきりキヌイト
ツメクサだと思い込んでいた
ため、細部の観察がおろそか
になっていたのだ。このよう
な小さな植物はやはり最初か
ら“その気”になって見ない
とダメなのである。さらに、
ついさっき通ったのと同じ道
を行くと、木場公園までの街
路脇にも、木場公園内の通路
にも、見落としていた同じ植
物がいっぱい生えていたので
あった。

このイトツメクサ、はたし
て東京初上陸なのだろうか？



▲木場公園舗道に見られるイトツメクサ（上、円内）とイトツメクサ（下、神戸港：2008年5月）

全農教HP「話のたねのテーブル」No.122
帰化植物ノート(その2)より再録。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小 川 奎
発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 元 村 廣 司

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電 話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成23年3月発行定価525円(本体500円+消費税25円)
植調第44巻第12号 (送料270円)

印刷所 (有)ネットワン

難防除雑草対策の新製品



1キロ粒剤・フロアブル

大好評の製品ラインナップ

SU抵抗性雑草・難防除雑草対策に

イッテツ® 1キロ粒剤
ジャンボフロアブル

殺虫性分入り(スクミリンゴガイ食害防止)

ショウリョク® ジャンボ

アピロイグル® フロアブル

クラッシュEX® ジャンボ

バトル® 粒剤

アワード® フロアブル

シェリフ 1キロ粒剤

ロングゲット® フロアブル

SU抵抗性雑草対応・田植同時処理にも対応

ドニチS 1キロ粒剤
ヨシキタ® 1キロ粒剤
ジャンボフロアブル

2成分のジャンボ剤

ゴヨウタ® ジャンボ

キックバイ® 1キロ粒剤

テイクオフ® 粒剤

会員募集中

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト i-農力 <http://www.i-nouryoku.com>

大地のめぐみ、まっすぐくへ
SCG GROUP



住友化学

住友化学株式会社

DU PONT The miracles of science™

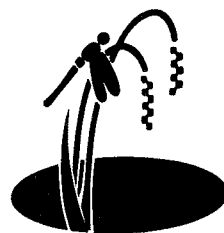
米国生まれ、 米の国育ち、DPX-84

1987年に上市したベンスルフロンメチル(DPX-84)は、

- 抵抗性雑草対策場面でも
- 田植え同時でも
- 直播栽培でも

多様な剤型で、これからも日本の
水田除草をお手伝いします。

®は米国デュポン社の登録商標です。



上記マークがついている除草剤
にはDPX-84が含まれています。

デュポン株式会社 農業製品事業部 〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1



幅広く
鋭い切れ味

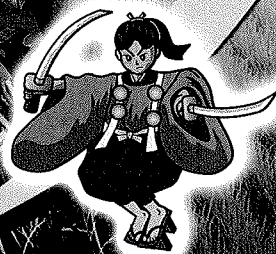
水稲用初・中期一発処理除草剤

マイバ®

1キロ粒剤

豆が 250

ジャンボ



●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記載しましょう。



JAグループ



経済連

登録商標 第4702318号

自然に学び 自然を守る

®はクミアイ化学工業(株)の登録商標



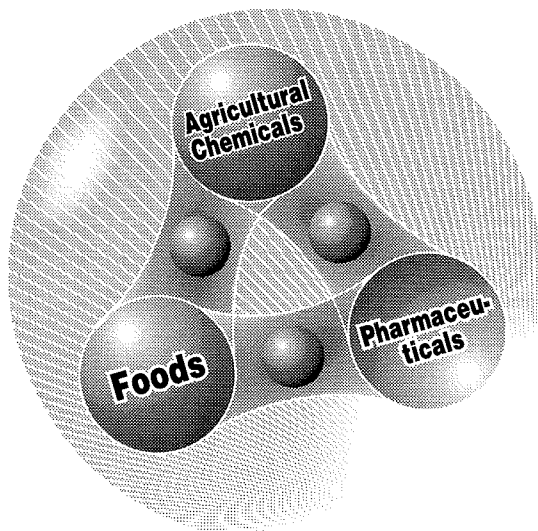
クミアイ化学工業株式会社

本社:東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL03-3822-5036
ホームページ <http://www.kumiai-chem.co.jp>

いのちの輝きを見つめる

Meiji

私たちは、夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、
世界の人々の心豊かなくらしに、貢献します。



植物成長調整剤

ジャスモンート
液剤



明治製菓株式会社

104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
<http://www.meiji.co.jp/nouyaku>